

0001 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：基礎

論点：CPUのキャッシュメモリを用いる主な目的として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「キャッシュは容量拡張ではなくアクセス高速化のために用いる。」

- ア：対応する記述：補助記憶装置の容量を物理的に増やす
- イ：対応する記述：CPUと主記憶の速度差を緩和し、平均メモリアクセス時間を短縮する
- ウ：対応する記述：停電時にも必ずデータを保持する
- エ：対応する記述：ネットワークの通信経路を選択する

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。キャッシュは容量拡張ではなくアクセス高速化のために用いる。
- イ：この記述の評価理由は「キャッシュは頻繁に参照されるデータや命令をCPUに近い高速な記憶装置へ保持し、主記憶アクセスを減らす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「一般的なCPUキャッシュは揮発性であり、不揮発保持が主目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「通信経路選択はルータ等の役割であり、CPUキャッシュの目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「補助記憶装置の容量を物理的に増やす」という記述に対応する。キャッシュは容量拡張ではなくアクセス高速化のために用いる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0002 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：基礎

論点：仮想記憶方式におけるページフォルトの説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「ページフォルトは必要ページが物理メモリ上にないときに発生し、OSがページを主記憶へロードする。」

- ア：対応する記述：ディスク装置が物理的に故障した状態だけをいう
- イ：対応する記述：参照した仮想ページが主記憶に存在せず、補助記憶から読み込む必要が生じた状態
- ウ：対応する記述：ネットワーク上でパケットが失われた状態
- エ：対応する記述：CPUの演算結果が必ずゼロになった状態

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「ページフォルトは通常の仮想記憶動作でも発生する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ページフォルトは必要ページが物理メモリ上にないときに発生し、OSがページを主記憶へロードする。
- ウ：この記述の評価理由は「ネットワークのパケット損失とは別概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「演算結果とは関係しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「参照した仮想ページが主記憶に存在せず、補助記憶から読み込む必要が生じた状態」という記述に対応する。ページフォルトは必要ページが物理メモリ上にないときに発生し、OSがページを主記憶へロードする。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0003

情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：基礎

論点：RAID1の特徴として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「RAIDは複数のディスクを組み合わせる方式であり、テープ保管の説明ではない。」

- ア：対応する記述：複数ディスクヘデータと分散パリティを配置し、容量効率を高める方式である
- イ：対応する記述：同一データを複数のディスクに複製して冗長性を確保する
- ウ：対応する記述：磁気テープだけを用いて長期保管する方式である
- エ：対応する記述：データを分割して高速化するが冗長性を持たない方式である

答え・解説

正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「これは代表的にはRAID5の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「RAID1はミラーリングにより、1台のディスク障害時にも同じデータを別ディスクから利用できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。RAIDは複数のディスクを組み合わせる方式であり、テープ保管の説明ではない。
 - エ：この記述の評価理由は「これはRAID0の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「磁気テープだけを用いて長期保管する方式である」という記述に対応する。RAIDは複数のディスクを組み合わせる方式であり、テープ保管の説明ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0004

情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：標準

論点：プロセスとスレッドの関係について最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「スレッドはOSそのものを起動する単位ではない。」

- ア：対応する記述：同一プロセス内の複数スレッドは、通常、プロセスのアドレス空間などを共有しながら独立した実行単位として動作する
- イ：対応する記述：同一プロセス内のスレッド同士は一切データを共有できない
- ウ：対応する記述：プロセスはCPU命令を実行できず、スレッドだけが補助記憶を管理する
- エ：対応する記述：スレッドは必ず別々のOSを起動する単位である

答え・解説

正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「スレッドはプロセス内の軽量な実行単位で、コードやヒープ等を共有しつつ各スレッド固有のスタック等を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「通常はプロセスのアドレス空間を共有する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「プロセスは実行中プログラムの資源単位であり、この説明は誤り。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。スレッドはOSそのものを起動する単位ではない。
- 総合解説：提示された評価理由は「スレッドは必ず別々のOSを起動する単位である」という記述に対応する。スレッドはOSそのものを起動する単位ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0005 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：標準

論点：プリエンティブなマルチタスク方式の説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「プリエンティブ方式ではOSが強制的にCPU使用権を切り替え、複数タスクを公平に実行させる。」

ア：対応する記述：OSがタイマ割込みなどを利用して実行中タスクからCPUを取り上げ、別タスクへ切り替えられる

イ：対応する記述：複数のコンピュータが必ず物理的に必要である

ウ：対応する記述：CPUを一切使用せず補助記憶だけでプログラムを実行する

エ：対応する記述：実行中タスクが自発的にCPUを返すまでOSは切替えられない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。プリエンティブ方式ではOSが強制的にCPU使用権を切り替え、複数タスクを公平に実行させる。

イ：この記述の評価理由は「1台のコンピュータでもマルチタスクは可能である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「プログラムの命令実行にはCPUが必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「これは協調型マルチタスクに近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「OSがタイマ割込みなどを利用して実行中タスクからCPUを取り上げ、別タスクへ切り替えられる」という記述に対応する。プリエンティブ方式ではOSが強制的にCPU使用権を切り替え、複数タスクを公平に実行させる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0006 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：標準

論点：コンパイラ方式とインタプリタ方式の一般的な違いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「一般的な関係は逆である。」

ア：対応する記述：コンパイラ方式はOSなしでは原理的に存在できない

イ：対応する記述：コンパイラはプログラムを一切変換せず、インタプリタだけが必ず実行ファイルを生成する

ウ：対応する記述：コンパイラはソースプログラムを実行前に機械語等へまとめて変換するのが典型で、インタプリタは実行時に逐次解釈するのが典型である

エ：対応する記述：インタプリタ方式では構文エラーが絶対に発生しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「コンパイルという翻訳方式自体は特定OSの存在を定義要件としない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。一般的な関係は逆である。

ウ：この記述の評価理由は「コンパイラとインタプリタは変換・実行のタイミングが代表的な違いである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「構文エラーは方式に関係なく発生し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「コンパイラはプログラムを一切変換せず、インタプリタだけが必ず実行ファイルを生成する」という記述に対応する。一般的な関係は逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0007 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：標準

論点：64ビットCPUであることから直接いえる一般的な説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「64ビットという表現はアーキテクチャ上のデータ幅等を示すが、搭載可能メモリが常に理論最大になるわけではない。」

- ア：対応する記述：すべての命令が必ず64バイト長になる
- イ：対応する記述：必ず64GBの主記憶しか搭載できない
- ウ：対応する記述：レジスタ幅やアドレス表現などが64ビットを基礎として設計されるが、実際に利用できる主記憶容量はCPU・OS・実装の制約を受ける
- エ：対応する記述：クロック周波数が必ず64GHzになる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「命令長が64バイトになることを意味しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「64ビットと64GBは同義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。64ビットという表現はアーキテクチャ上のデータ幅等を示すが、搭載可能メモリが常に理論最大になるわけではない。
エ：この記述の評価理由は「ビット幅とクロック周波数は別の指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「レジスタ幅やアドレス表現などが64ビットを基礎として設計されるが、実際に利用できる主記憶容量はCPU・OS・実装の制約を受ける」という記述に対応する。64ビットという表現はアーキテクチャ上のデータ幅等を示すが、搭載可能メモリが常に理論最大になるわけではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0008 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：標準

論点：ある処理の実行時間のうち80％だけを、新しいプロセッサで4倍高速化した。Amdahlの法則に基づく全体の速度向上率として最も近いものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「高速化可能部分の割合と倍率から算出すると2.5倍である。」

- ア：対応する記述：約1.25倍
- イ：対応する記述：4倍
- ウ：対応する記述：約2.5倍
- エ：対応する記述：約5倍

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「高速化可能部分を単純に20％短縮した場合とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「高速化されない20％が残るため、全体が4倍にはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「高速化後の相対実行時間は $0.2 + 0.8 / 4 = 0.4$ なので、速度向上率は $1 / 0.4 = 2.5$ 倍である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。高速化可能部分の割合と倍率から算出すると2.5倍である。
総合解説：提示された評価理由は「約5倍」という記述に対応する。高速化可能部分の割合と倍率から算出すると2.5倍である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0009 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：応用

論点：ページサイズが4KiB、論理アドレス空間が32ビットの単純ページング方式である。ページ番号に必要なビット数として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。
「12ビットはページ内オフセットに必要なビット数である。」

- ア：対応する記述：12ビット
- イ：対応する記述：32ビット
- ウ：対応する記述：20ビット
- エ：対応する記述：16ビット

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。12ビットはページ内オフセットに必要なビット数である。
イ：この記述の評価理由は「アドレス全体が32ビットであり、ページ番号だけで32ビットは不要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「4KiB = 2¹²バイトなのでページ内オフセットは12ビット。32 - 12 = 20ビットがページ番号に必要となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「32ビット論理アドレスと4KiBページからは20ビットとなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「12ビット」という記述に対応する。12ビットはページ内オフセットに必要なビット数である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0010 情報技術基礎 > ハードウェア・OS・ソフトウェア | 難易度：応用

論点：可用性を高めるための冗長化設計に関する説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「冗長化は同一機能を複数系統で持ち、障害時の継続性を高める。」

- ア：対応する記述：同じ電源装置を1台だけ使うほど可用性は高くなる
- イ：対応する記述：単一障害点を減らし、障害時に代替系へ切り替えられる構成にすることで、サービス停止リスクを低減できる
- ウ：対応する記述：冗長化すればバックアップや監視は一切不要になる
- エ：対応する記述：冗長化は必ず処理速度を2倍にする技術である

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「単一障害点を残すため、可用性向上とは逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。冗長化は同一機能を複数系統で持ち、障害時の継続性を高める。
ウ：この記述の評価理由は「冗長化だけでデータ保護や監視の必要性はなくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「可用性向上が主目的であり、性能が必ず倍になるわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「単一障害点を減らし、障害時に代替系へ切り替えられる構成にすることで、サービス停止リスクを低減できる」という記述に対応する。冗長化は同一機能を複数系統で持ち、障害時の継続性を高める。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0011

情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：基礎

論点：2進数101101を10進数で表したものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「 $32 + 8 + 1$ だけを加えた値で、4の位を落としている。」

- ア：対応する記述：53
- イ：対応する記述：45
- ウ：対応する記述：41
- エ：対応する記述：44

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「16の位を誤って加えた値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「 $101101 = 32 + 8 + 4 + 1 = 45$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $32 + 8 + 1$ だけを加えた値で、4の位を落としている。
エ：この記述の評価理由は「最下位の1を落とした値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「41」という記述に対応する。 $32 + 8 + 1$ だけを加えた値で、4の位を落としている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0012

情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：基礎

論点：8ビットの2の補数表現で、10進数の-5を表したものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「+5の00000101を反転して11111010とし、1を加えると11111011となる。」

- ア：対応する記述：11111010
- イ：対応する記述：00000101
- ウ：対応する記述：10000101
- エ：対応する記述：11111011

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「1の補数の段階であり、さらに1を加える必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「これは+5の表現である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「符号ビットを付けただけで2の補数表現ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $+5$ の00000101を反転して11111010とし、1を加えると11111011となる。
総合解説：提示された評価理由は「11111011」という記述に対応する。 $+5$ の00000101を反転して11111010とし、1を加えると11111011となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0013 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：基礎

論点：UnicodeとUTF-8の関係について最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「送受信側のエンコーディング不一致等で文字化けは起こり得る。」

- ア：対応する記述：Unicodeを使うと文字化けは原理的に絶対発生しない
- イ：対応する記述：Unicodeは文字に符号位置を割り当てる体系であり、UTF-8はその符号位置をバイト列へ符号化する方式の一つである
- ウ：対応する記述：UTF-8は画像圧縮方式であり文字とは無関係である
- エ：対応する記述：Unicodeでは世界中の文字を必ず1バイト固定長で表す

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。送受信側のエンコーディング不一致等で文字化けは起こり得る。
イ：この記述の評価理由は「UnicodeとUTF-8は同義ではなく、文字集合・符号位置とエンコーディングの関係にある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「UTF-8は文字エンコーディング方式である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「UTF-8では1～4バイト等の可変長で表される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Unicodeを使うと文字化けは原理的に絶対発生しない」という記述に対応する。送受信側のエンコーディング不一致等で文字化けは起こり得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0014 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：標準

論点：要素数nの配列を、比較に基づくマージソートで整列する場合の平均的な時間計算量として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「要素数に無関係な定数時間ではない。」

- ア：対応する記述： $O(\log n)$
- イ：対応する記述： $O(1)$
- ウ：対応する記述： $O(n^2)$
- エ：対応する記述： $O(n \log n)$

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「探索の一部ではあり得るが、全要素の整列には不足する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。要素数に無関係な定数時間ではない。
ウ：この記述の評価理由は「単純なバブルソート等の典型的計算量であり、マージソートの標準的計算量ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「マージソートは分割を $\log n$ 段行い、各段で全要素を線形に処理するため $O(n \log n)$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「 $O(1)$ 」という記述に対応する。要素数に無関係な定数時間ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0015 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：標準

論点：二分探索を正しく適用するための前提として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「二分探索は中央要素との大小比較で探索範囲を半分ずつ絞るため、順序付けが必要である。」

- ア：対応する記述：データが必ず連結リストである
- イ：対応する記述：要素数が必ず2のべき乗である
- ウ：対応する記述：探索対象のデータが、探索キーに基づいて整列されている
- エ：対応する記述：探索対象が毎回乱数で並び替えられている

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「連結リストであることは前提ではなく、ランダムアクセスできる配列などが適する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「要素数は2のべき乗でなくてもよい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。二分探索は中央要素との大小比較で探索範囲を半分ずつ絞るため、順序付けが必要である。
エ：この記述の評価理由は「順序が崩れていると半分を捨てる判断ができない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「探索対象のデータが、探索キーに基づいて整列されている」という記述に対応する。二分探索は中央要素との大小比較で探索範囲を半分ずつ絞るため、順序付けが必要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0016 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：標準

論点：関数呼出しや括弧の対応確認に適したデータ構造として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「キューはFIFOであり、到着順処理などに適する。」

- ア：対応する記述：スタック
- イ：対応する記述：ハッシュ表
- ウ：対応する記述：ヒープ
- エ：対応する記述：キュー

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「最後に入れた要素を最初に取り出すLIFO構造は、呼出し履歴や括弧対応の管理に適する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「キー検索には有効だが、入れ子構造の直近要素管理を主目的としない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「優先度付きキュー等に用いる木構造で、括弧の対応確認の典型ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。キューはFIFOであり、到着順処理などに適する。
総合解説：提示された評価理由は「キュー」という記述に対応する。キューはFIFOであり、到着順処理などに適する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0017 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：標準

論点：次の処理を実行したとき、変数sの最終値として正しいものはどれか。
「 $s \leftarrow 0$ 。iを1から5まで1ずつ増やしながら、iが偶数なら $s \leftarrow s + i$ を実行する。」 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「加算されるのは2と4なので、 $s = 0 + 2 + 4 = 6$ である。」

- ア：対応する記述：6
- イ：対応する記述：9
- ウ：対応する記述：15
- エ：対応する記述：5

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。加算されるのは2と4なので、 $s = 0 + 2 + 4 = 6$ である。
イ：この記述の評価理由は「奇数1,3,5を足した値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「1～5の全てを足した値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「1～5の個数と混同している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「6」という記述に対応する。加算されるのは2と4なので、 $s = 0 + 2 + 4 = 6$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0018 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：標準

論点：再帰呼出しを利用するプログラムについて最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「呼出しごとにスタックフレーム等を使用する。」

- ア：対応する記述：再帰処理は必ず反復処理より高速である
- イ：対応する記述：再帰を用いるとメモリを一切消費しない
- ウ：対応する記述：再帰では関数を自分自身から呼び出すことはできない
- エ：対応する記述：再帰を終了させる基底条件がないと、呼出しが継続してスタック領域を使い尽くすおそれがある

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「実行効率は問題や実装によって異なり、呼出しオーバーヘッドもある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。呼出しごとにスタックフレーム等を使用する。
ウ：この記述の評価理由は「自己呼出しが再帰の基本である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「再帰では必ず停止条件と、そこへ近づく処理が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「再帰を用いるとメモリを一切消費しない」という記述に対応する。呼出しごとにスタックフレーム等を使用する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0019 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：応用

論点：平均計算量 $O(1)$ の探索が期待できるハッシュ表でも、最悪時に探索性能が悪化する主な理由として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「ハッシュ関数は格納位置決定に使うもので、データ自体を必ず消すわけではない。」

ア：対応する記述：多くのキーが同じハッシュ値に集中する衝突が発生し、同一バケット内の探索が長くなるため

イ：対応する記述：配列を一切使用できないため

ウ：対応する記述：キーをハッシュ値へ変換すると必ずデータが消えるため

エ：対応する記述：ハッシュ表は要素数に関係なく必ず $O(n^2)$ になるため

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ハッシュ表は衝突処理と負荷率によって性能が大きく変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「実装では配列等を用いることが一般的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ハッシュ関数は格納位置決定に使うもので、データ自体を必ず消すわけではない。

エ：この記述の評価理由は「良好なハッシュと適切な負荷率なら平均 $O(1)$ が期待できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「キーをハッシュ値へ変換すると必ずデータが消えるため」という記述に対応する。ハッシュ関数は格納位置決定に使うもので、データ自体を必ず消すわけではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0020 情報技術基礎 > データ表現・アルゴリズム・プログラミング | 難易度：応用

論点：安定ソート（stable sort）の性質として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「安定性は同一キー要素の順序保存を意味し、複数キーで段階的にソートするときに有用である。」

ア：対応する記述：必ず $O(1)$ の時間で整列する

イ：対応する記述：必ず追加メモリを一切使わない

ウ：対応する記述：どの入力でも比較回数が必ず同じになる

エ：対応する記述：比較キーが等しい要素同士の元の相対順序を保ったまま整列する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「安定性は時間計算量を意味しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「安定性と追加メモリ量は別の性質である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「安定性は比較回数の固定を意味しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。安定性は同一キー要素の順序保存を意味し、複数キーで段階的にソートするときに有用である。

総合解説：提示された評価理由は「比較キーが等しい要素同士の元の相対順序を保ったまま整列する」という記述に対応する。安定性は同一キー要素の順序保存を意味し、複数キーで段階的にソートするときに有用である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0021 情報技術基礎 > データベース | 難易度：基礎

論点：関係データベースにおける主キーの性質として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「主キーは重複を許さない。」

- ア：対応する記述：同じ値を何行でも重複させることが主目的である
- イ：対応する記述：外部キーと同じ列名でなければならない
- ウ：対応する記述：各行を一意に識別でき、主キーを構成する属性にはNULLを許さない
- エ：対応する記述：必ず文字列型でなければならない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。主キーは重複を許さない。
イ：この記述の評価理由は「外部キーとの列名一致は必須ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「主キーは行識別の基準であり、一意性而非NULL性が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「主キーのデータ型は文字列に限定されない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「同じ値を何行でも重複させることが主目的である」という記述に対応する。主キーは重複を許さない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0022 情報技術基礎 > データベース | 難易度：基礎

論点：外部キー制約を設定する主な目的として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「外部キーは参照先の存在を確認し、表間関係の整合性を守る。」

- ア：対応する記述：すべての検索を必ず高速化する
- イ：対応する記述：関連する表の間で、存在しない参照先を持つ行の登録などを防ぎ、参照整合性を保つ
- ウ：対応する記述：表を必ず1列だけにする
- エ：対応する記述：データを自動で暗号化する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「索引の目的とは異なり、外部キーだけで全検索が高速になるわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。外部キーは参照先の存在を確認し、表間関係の整合性を守る。
ウ：この記述の評価理由は「正規化や表構造とは別の制約である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「外部キーは暗号化機能ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「関連する表の間で、存在しない参照先を持つ行の登録などを防ぎ、参照整合性を保つ」という記述に対応する。外部キーは参照先の存在を確認し、表間関係の整合性を守る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0023 情報技術基礎 > データベース | 難易度：基礎

論点：第3正規形まで正規化する主な目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「正規化はデータ型を画像に限定するものではない。」

- ア：対応する記述：重複データや更新時の不整合を減らし、属性間の不適切な依存関係を排除する
- イ：対応する記述：検索時にJOINを完全になくす
- ウ：対応する記述：画像データだけを保存できるようにする
- エ：対応する記述：すべての表を必ず一つに統合する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「正規化は関数従属性に基づき表を分解し、挿入・更新・削除時の異常を減らす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「正規化後は複数表のJOINが必要になる場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。正規化はデータ型を画像に限定するものではない。
エ：この記述の評価理由は「正規化では必要に応じて表を分割する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「画像データだけを保存できるようにする」という記述に対応する。正規化はデータ型を画像に限定するものではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0024 情報技術基礎 > データベース | 難易度：標準

論点：トランザクションのACID特性のうち、Atomicity（原子性）の説明として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは原子性の定義ではない。」

- ア：対応する記述：処理結果を永久に削除できなくする
- イ：対応する記述：一連の処理がすべて完了するか、失敗時には原則として全体を取り消す
- ウ：対応する記述：データを必ず暗号化して保存する
- エ：対応する記述：同時実行する処理数を常に1個に制限する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「永続性とも異なり、永久削除禁止を意味しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「原子性はトランザクションを不可分な処理単位として扱う性質である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「暗号化はセキュリティ対策でありACIDの原子性ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは原子性の定義ではない。
総合解説：提示された評価理由は「同時実行する処理数を常に1個に制限する」という記述に対応する。これは原子性の定義ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0025

情報技術基礎 > データベース | 難易度：標準

論点：同じデータを二つのトランザクションが読み、一方の更新結果を反映せずに他方が上書きしてしまう「更新の消失」を防ぐために重要な仕組みはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ロックやMVCC等で競合を制御し、一貫したトランザクション実行を確保する。」

ア：対応する記述：適切な排他制御や分離レベルによって同時更新を制御する

イ：対応する記述：文字コードをUTF-8に統一する

ウ：対応する記述：表名を短くする

エ：対応する記述：バックアップを1年に1回だけ取得する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ロックやMVCC等で競合を制御し、一貫したトランザクション実行を確保する。

イ：この記述の評価理由は「文字コードは同時更新競合の防止策ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「命名規則は更新の消失を防がない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「バックアップは復旧には役立つが同時更新制御そのものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「適切な排他制御や分離レベルによって同時更新を制御する」という記述に対応する。ロックやMVCC等で競合を制御し、一貫したトランザクション実行を確保する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0026

情報技術基礎 > データベース | 難易度：標準

論点：SQLで「部署ごとの平均給与」を求めるときに用いる句として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「ORDER BYは結果の並び順を指定するが、グループ集約そのものは行わない。」

ア：対応する記述：DROP TABLE

イ：対応する記述：ORDER BYだけ

ウ：対応する記述：COMMIT

エ：対応する記述：GROUP BY

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「表を削除するDDLであり集計には使わない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ORDER BYは結果の並び順を指定するが、グループ集約そのものは行わない。

ウ：この記述の評価理由は「トランザクション確定の命令であり集計には使わない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「部署単位に行をグループ化し、AVGなどの集約関数を適用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「ORDER BYだけ」という記述に対応する。ORDER BYは結果の並び順を指定するが、グループ集約そのものは行わない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0027 情報技術基礎 > データベース | 難易度：標準

論点：データベースの索引（インデックス）に関する説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「インデックスは検索性能と更新・容量コストのトレードオフを持つ。」

- ア：対応する記述：索引を増やすほど更新処理も必ず高速になる
- イ：対応する記述：索引は主キーにしか作成できない
- ウ：対応する記述：検索を高速化できる一方、索引の格納領域が必要になり、更新時には索引更新のオーバーヘッドが生じる
- エ：対応する記述：索引を作れば表のデータそのものが不要になる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「索引が多いとINSERT・UPDATE・DELETE時の維持コストが増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「多くのDBMSでは主キー以外の列にも索引を作成できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。インデックスは検索性能と更新・容量コストのトレードオフを持つ。
エ：この記述の評価理由は「索引はデータへのアクセス経路であり、元データを置き換えるものではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「検索を高速化できる一方、索引の格納領域が必要になり、更新時には索引更新のオーバーヘッドが生じる」という記述に対応する。インデックスは検索性能と更新・容量コストのトレードオフを持つ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0028 情報技術基礎 > データベース | 難易度：標準

論点：データベース障害回復で、更新前後の情報を記録したログを利用する目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「ルーティングの機能ではない。」

- ア：対応する記述：障害時に未完了トランザクションを取り消したり、コミット済み更新を再実行したりして整合性を回復する
- イ：対応する記述：SQL文の予約語を自動翻訳する
- ウ：対応する記述：主キーを自動的に文字列型へ変更する
- エ：対応する記述：ネットワーク経路を最短化する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「ログはUNDO/REDOなどの回復処理に利用される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「ログの主目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「スキーマ変更とは関係しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ルーティングの機能ではない。
総合解説：提示された評価理由は「ネットワーク経路を最短化する」という記述に対応する。ルーティングの機能ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0029 情報技術基礎 > データベース | 難易度：応用

論点：二つのトランザクションが互いに相手の保持するロック解放を待ち続ける状態を何というか。
。次の診断理由に対応する判断はどれか。「仮想記憶でページ交換が多発する状態である。」

- ア：対応する記述：スラッシング
- イ：対応する記述：フラグメンテーション
- ウ：対応する記述：ループバック
- エ：対応する記述：デッドロック

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。仮想記憶でページ交換が多発する状態である。
イ：この記述の評価理由は「記憶領域などが断片化する状態である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「通信やテストで自分自身へ戻す概念であり、ロック競合ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「複数処理が循環待ちとなり、いずれも進行できない状態をデッドロックという。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「スラッシング」という記述に対応する。仮想記憶でページ交換が多発する状態である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0030 情報技術基礎 > データベース | 難易度：応用

論点：顧客表と注文表があり、1人の顧客が0件以上の注文を持ち、各注文は必ず1人の顧客に属する。この関係を最も適切に表すものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「1顧客から複数注文が生じ、各注文は1顧客に対応するため1対多である。」

- ア：対応する記述：顧客と注文に関連は存在しない
- イ：対応する記述：顧客1：注文多の1対多関係
- ウ：対応する記述：顧客と注文は常に1対1
- エ：対応する記述：顧客多：注文多で中間表が必ず必要

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「条件上、明確な関連がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。1顧客から複数注文が生じ、各注文は1顧客に対応するため1対多である。
ウ：この記述の評価理由は「1顧客が複数注文を持てるため1対1ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「この条件では各注文が1顧客にしか属さないため多対多ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「顧客1：注文多の1対多関係」という記述に対応する。1顧客から複数注文が生じ、各注文は1顧客に対応するため1対多である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0031 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：基礎

論点：TCPとUDPの一般的な違いとして最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「どちらもIP上で利用されるトランスポート層プロトコルである。」

ア：対応する記述：TCPはコネクション型で順序制御や再送制御を行う一方、UDPはこれらを標準では行わず軽量である

イ：対応する記述：TCPは必ず暗号化され、UDPは暗号化できない

ウ：対応する記述：UDPだけがIPアドレスを利用し、TCPは利用しない

エ：対応する記述：UDPは必ずTCPより遅い

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「TCPは信頼性を提供し、UDPは低オーバーヘッドを重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「TCP自体は暗号化を保証しない。TLS等を組み合わせる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。どちらもIP上で利用されるトランスポート層プロトコルである。

エ：この記述の評価理由は「用途やネットワーク状態によって異なり、UDPは一般に制御オーバーヘッドが小さい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「UDPだけがIPアドレスを利用し、TCPは利用しない」という記述に対応する。どちらもIP上で利用されるトランスポート層プロトコルである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0032 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：基礎

論点：IPv4アドレス192.168.10.25/24におけるネットワークアドレスとして正しいものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「/24では上位24ビットがネットワーク部で、下位8ビットを0にすると192.168.10.0となる。」

ア：対応する記述：192.168.0.0

イ：対応する記述：192.168.10.25

ウ：対応する記述：192.168.10.255

エ：対応する記述：192.168.10.0

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「/24なら第3オクテットまでネットワーク部なので10を残す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「これはホストアドレスそのものである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「これは/24で一般的なブロードキャストアドレスである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。/24では上位24ビットがネットワーク部で、下位8ビットを0にすると192.168.10.0となる。

総合解説：提示された評価理由は「192.168.10.0」という記述に対応する。/24では上位24ビットがネットワーク部で、下位8ビットを0にすると192.168.10.0となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0033 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：基礎

論点：DNSの主な役割として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「MACアドレス生成はDNSの役割ではない。」

- ア：対応する記述：LAN内でMACアドレスを自動生成する
- イ：対応する記述：Webページの内容を暗号化する
- ウ：対応する記述：ドメイン名とIPアドレスなどの情報を対応付けて名前解決を行う
- エ：対応する記述：端末へIPアドレスを自動配布する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。MACアドレス生成はDNSの役割ではない。
イ：この記述の評価理由は「暗号化はTLS等の役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「DNSは階層的な分散データベースとして名前と各種レコードを管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これはDHCPの代表的役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「LAN内でMACアドレスを自動生成する」という記述に対応する。MACアドレス生成はDNSの役割ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0034 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：基礎

論点：DHCPを利用する主な目的として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「DHCPは暗号化プロトコルではない。」

- ア：対応する記述：端末へIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの設定を自動配布する
- イ：対応する記述：Web通信をHTTPSへ変換する
- ウ：対応する記述：ドメイン名をIPアドレスへ変換する
- エ：対応する記述：異なるAS間の経路を交換する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由が直接対応する記述である。DHCPはネットワーク設定を動的に割り当て、管理負担を減らす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。DHCPは暗号化プロトコルではない。
ウ：この記述の評価理由は「これはDNSの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これはBGP等の役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Web通信をHTTPSへ変換する」という記述に対応する。DHCPは暗号化プロトコルではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0035 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：NATを用いる代表的な目的として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「NAT/NAPTはアドレス変換によりプライベートアドレス網とインターネットを接続する。」

- ア：対応する記述：ファイルの改ざん検知用ハッシュを計算する
- イ：対応する記述：ドメイン名を管理する
- ウ：対応する記述：プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスを変換し、複数端末で外部接続を共有する
- エ：対応する記述：データを必ず圧縮して通信量を半分にする

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ハッシュ計算とは別機能である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「これはDNSの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。NAT/NAPTはアドレス変換によりプライベートアドレス網とインターネットを接続する。
エ：この記述の評価理由は「NATは圧縮技術ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスを変換し、複数端末で外部接続を共有する」という記述に対応する。NAT/NAPTはアドレス変換によりプライベートアドレス網とインターネットを接続する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0036 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：HTTPSの説明として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「HTTPSはWeb通信に用いる。」

- ア：対応する記述：URLの文字数を短くするための圧縮方式である
- イ：対応する記述：HTTPをTLSによる暗号化・認証等で保護して通信する仕組みである
- ウ：対応する記述：暗号化せずにTCPを使わない方式である
- エ：対応する記述：HTTPとは無関係な電子メール専用プロトコルである

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「HTTPSの目的は通信保護である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「HTTPSではHTTP通信をTLS上で行い、盗聴・改ざん・なりすましへの耐性を高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「通常TCP上のTLSを利用し、HTTP/3ではQUIC上のTLSを利用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。HTTPSはWeb通信に用いる。
総合解説：提示された評価理由は「HTTPとは無関係な電子メール専用プロトコルである」という記述に対応する。HTTPSはWeb通信に用いる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0037 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：電子メールをサーバ上に保持したまま複数端末からフォルダ管理・同期しやすい受信プロトコルとして最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「IMAPはメールをサーバ側で管理し、複数端末から状態を同期しやすい。」

- ア：対応する記述：IMAP
- イ：対応する記述：SMTP
- ウ：対応する記述：ARP
- エ：対応する記述：SNMP

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。IMAPはメールをサーバ側で管理し、複数端末から状態を同期しやすい。
イ：この記述の評価理由は「SMTPは主としてメール送信・転送に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「ARPはIPアドレスとMACアドレスの対応解決に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「SNMPはネットワーク機器等の監視・管理に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「IMAP」という記述に対応する。IMAPはメールをサーバ側で管理し、複数端末から状態を同期しやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0038 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：同一LAN内で、宛先IPv4アドレスに対応するMACアドレスを取得するために用いられるプロトコルはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「FTPはファイル転送プロトコルである。」

- ア：対応する記述：ARP
- イ：対応する記述：FTP
- ウ：対応する記述：BGP
- エ：対応する記述：DNS

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「ARPはIPv4アドレスからリンク層のMACアドレスを解決する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。FTPはファイル転送プロトコルである。
ウ：この記述の評価理由は「BGPは自律システム間の経路制御に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「DNSは主にドメイン名とIPアドレスの対応を扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「FTP」という記述に対応する。FTPはファイル転送プロトコルである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0039 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：VLANを導入する効果として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「VLANはIPv4アドレス枯渇の直接解決策ではない。」

- ア：対応する記述：暗号鍵を自動生成する
- イ：対応する記述：CPUの仮想メモリ容量を増やす
- ウ：対応する記述：インターネット全体のIPアドレス枯渇を完全に解決する
- エ：対応する記述：物理的な配線構成に必ずしも依存せず、論理的にブロードキャストドメインを分割できる

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「VLANは暗号技術ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「ネットワーク分割の技術であり、CPUメモリとは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。VLANはIPv4アドレス枯渇の直接解決策ではない。
- エ：この記述の評価理由は「VLANはスイッチ上で論理ネットワークを分け、部署や用途ごとの分離に利用できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「インターネット全体のIPアドレス枯渇を完全に解決する」という記述に対応する。VLANはIPv4アドレス枯渇の直接解決策ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0040 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：標準

論点：ルータの基本的な役割として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ルータはネットワーク層でパケットを中継し、宛先ネットワークへの次ホップを判断する。」

- ア：対応する記述：プログラムのソースコードを機械語へ翻訳する
- イ：対応する記述：同一端末内のプロセスを切り替える
- ウ：対応する記述：データベースの主キーを生成する
- エ：対応する記述：IPアドレスとルーティングテーブルを用いて、異なるネットワーク間のパケット転送経路を選択する

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「これはコンパイラの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「これはOSスケジューラの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「ルータの役割ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ルータはネットワーク層でパケットを中継し、宛先ネットワークへの次ホップを判断する。

総合解説：提示された評価理由は「IPアドレスとルーティングテーブルを用いて、異なるネットワーク間のパケット転送経路を選択する」という記述に対応する。ルータはネットワーク層でパケットを中継し、宛先ネットワークへの次ホップを判断する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0041 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：応用

論点：100Mbit/sの回線で、通信効率を無視して100MByteのデータを送信する理論上の最短時間として最も近いものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「Byteとbitを同一視している。」

- ア：対応する記述：1秒
- イ：対応する記述：10秒
- ウ：対応する記述：80秒
- エ：対応する記述：8秒

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。Byteとbitを同一視している。
イ：この記述の評価理由は「単純計算では8秒である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「桁を1つ誤っている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「100MByte = 800Mbit。800Mbit ÷ 100Mbit/s = 8秒である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「1秒」という記述に対応する。Byteとbitを同一視している。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0042 ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク・インターネット | 難易度：応用

論点：通信のスループットが十分でも、遠隔地の対話型システムで操作感が悪くなる主因として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「対話処理では帯域だけでなくレイテンシが体感性能を左右する。」

- ア：対応する記述：データがすべてASCII文字である
- イ：対応する記述：往復遅延時間（RTT）が大きく、要求と応答の待ち時間が増える
- ウ：対応する記述：DNS名が短すぎる
- エ：対応する記述：MACアドレスが16進数表記である

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「文字種は遠距離遅延の主因ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。対話処理では帯域だけでなくレイテンシが体感性能を左右する。
ウ：この記述の評価理由は「名称の長さは通常RTTの主因ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「表記方法は通信遅延の主因ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「往復遅延時間（RTT）が大きく、要求と応答の待ち時間が増える」という記述に対応する。対話処理では帯域だけでなくレイテンシが体感性能を左右する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0043 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：基礎

論点：情報セキュリティのCIA三要素におけるIntegrity（完全性）の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「CIAのいずれの目的にも当たらない。」

- ア：対応する記述：必要なときに情報やサービスを利用できること
- イ：対応する記述：認可された者だけが情報へアクセスできること
- ウ：対応する記述：すべての情報を公開すること
- エ：対応する記述：情報が不正に変更・破壊されず、正確で完全な状態が保たれていること

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「これは可用性の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「これは機密性の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。CIAのいずれの目的にも当たらない。
- エ：この記述の評価理由は「完全性はデータやシステムが意図せず改変されない性質をいう。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「すべての情報を公開すること」という記述に対応する。CIAのいずれの目的にも当たらない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0044 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：基礎

論点：共通鍵暗号方式の一般的な特徴として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは公開鍵暗号の説明とも異なる。」

- ア：対応する記述：ハッシュ値から必ず元の平文を復元できる
- イ：対応する記述：鍵を使わずに必ず安全な暗号化を行う
- ウ：対応する記述：暗号化と復号に同じ秘密鍵を共有し、高速な処理に適する一方、安全な鍵配送が課題となる
- エ：対応する記述：公開鍵だけを使い秘密鍵は存在しない

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「ハッシュは一方方向性を前提とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「暗号方式では鍵管理が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「共通鍵暗号は大量データの暗号化に向くが、共有鍵をどう安全に渡すかが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは公開鍵暗号の説明とも異なる。

総合解説：提示された評価理由は「公開鍵だけを使い秘密鍵は存在しない」という記述に対応する。これは公開鍵暗号の説明とも異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0045 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：基礎

論点：暗号学的ハッシュ関数の利用目的として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ハッシュは入力変化に敏感な一方方向関数として、完全性確認等に使われる。」

- ア：対応する記述：入力データから固定長のダイジェストを計算し、改ざん検知やパスワード検証などに利用する
- イ：対応する記述：CPUのクロック周波数を変更する
- ウ：対応する記述：ハッシュ値から元のデータを常に完全復元する
- エ：対応する記述：通信経路を自動選択する

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ハッシュは入力変化に敏感な一方方向関数として、完全性確認等に使われる。
 - イ：この記述の評価理由は「ハッシュ関数とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「暗号学的ハッシュは一方方向性が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：この記述の評価理由は「これはルーティングの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「入力データから固定長のダイジェストを計算し、改ざん検知やパスワード検証などに利用する」という記述に対応する。ハッシュは入力変化に敏感な一方方向関数として、完全性確認等に使われる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0046 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：標準

論点：電子署名によって主に確認できるものとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「電子署名は内容の事実性までは保証しない。」

- ア：対応する記述：署名者が対応する秘密鍵を用いたことと、署名後に対象データが改ざんされていないこと
- イ：対応する記述：署名した文書の内容が必ず真実であること
- ウ：対応する記述：受信者以外が文書を絶対に読めないこと
- エ：対応する記述：将来のシステム障害が絶対に起きないこと

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「電子署名は送信者認証と完全性確認に利用される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。電子署名は内容の事実性までは保証しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「機密性は暗号化等で確保する。署名だけでは本文を秘匿しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：この記述の評価理由は「可用性保証とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「署名した文書の内容が必ず真実であること」という記述に対応する。電子署名は内容の事実性までは保証しない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0047 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：標準

論点：多要素認証（MFA）の例として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「知っているもの」と「持っているもの」という異なる要素を組み合わせている。」

- ア：対応する記述：ユーザーIDとメールアドレスを入力する
- イ：対応する記述：同じパスワードを2回入力する
- ウ：対応する記述：パスワードと、端末内の暗号鍵を利用する認証器を組み合わせる
- エ：対応する記述：パスワードと秘密の質問の答えを組み合わせる

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「識別情報だけでは異なる認証要素の組合せにならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「同一要素の反復であり多要素ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。「知っているもの」と「持っているもの」という異なる要素を組み合わせている。
- エ：この記述の評価理由は「どちらも知識要素であり、要素が異なるとはいえない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「パスワードと、端末内の暗号鍵を利用する認証器を組み合わせる」という記述に対応する。「知っているもの」と「持っているもの」という異なる要素を組み合わせている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0048 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：標準

論点：最小権限の原則に基づくアクセス制御として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「追跡性を低下させ、権限管理にも不適切である。」

- ア：対応する記述：退職者のアカウントを永久に有効のまま残す
- イ：対応する記述：利用者やプロセスに、業務遂行に必要な最小限の権限だけを付与する
- ウ：対応する記述：全従業員へ管理者権限を与える
- エ：対応する記述：共有IDを使い誰が操作したか記録しない

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「不要権限を残すため不適切である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「侵害や誤操作時の影響範囲を限定するため、必要以上の権限を与えない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「最小権限と逆の運用である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。追跡性を低下させ、権限管理にも不適切である。

総合解説：提示された評価理由は「共有IDを使い誰が操作したか記録しない」という記述に対応する。追跡性を低下させ、権限管理にも不適切である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0049 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：標準

論点：SQLインジェクション対策として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「攻撃文字列がSQLとして解釈される危険を高める。」

- ア：対応する記述：入力値をそのままSQL文字列へ連結する
- イ：対応する記述：SQL文と利用者入力を分離するパラメータ化クエリ（プレースホルダ）を用いる
- ウ：対応する記述：データベース管理者権限でWebアプリを常時実行する
- エ：対応する記述：エラーメッセージにSQL文を詳細表示する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。攻撃文字列がSQLとして解釈される危険を高める。
イ：この記述の評価理由は「入力をSQL構文として解釈させないことが重要で、パラメータ化は代表的対策である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「侵害時の被害を拡大する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「攻撃者へ内部情報を与える可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「入力値をそのままSQL文字列へ連結する」という記述に対応する。攻撃文字列がSQLとして解釈される危険を高める。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0050 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：標準

論点：TLSでWebサーバ証明書を検証する主な目的として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「証明書検証により、なりすましサーバへの接続リスクを低減する。」

- ア：対応する記述：Webサイトの掲載内容がすべて合法か確認する
- イ：対応する記述：接続先サーバの公開鍵とドメイン名等の主体情報の結び付きを信頼できる認証局の仕組みで確認する
- ウ：対応する記述：ユーザーのパスワードをサーバ証明書内に保存する
- エ：対応する記述：サーバのCPU性能が十分か確認する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「証明書はコンテンツの合法性を保証しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。証明書検証により、なりすましサーバへの接続リスクを低減する。
ウ：この記述の評価理由は「証明書の目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「証明書は性能を保証しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「接続先サーバの公開鍵とドメイン名等の主体情報の結び付きを信頼できる認証局の仕組みで確認する」という記述に対応する。証明書検証により、なりすましサーバへの接続リスクを低減する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0051 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：応用

論点：ゼロトラストの考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「従来型境界防御への依存であり、ゼロトラストの考え方と反する。」

- ア：対応する記述：認証を廃止して利便性を最優先する
- イ：対応する記述：すべてのデータを公開情報に変える
- ウ：対応する記述：社内ネットワーク内の通信は無条件に信頼する
- エ：対応する記述：社内LAN内であるというネットワーク位置だけを理由に暗黙の信頼を与えず、資源アクセスごとに主体・端末等を継続的に評価する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ゼロトラストではむしろ認証・認可を重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「情報公開を目的とする概念ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。従来型境界防御への依存であり、ゼロトラストの考え方と反する。
エ：この記述の評価理由は「ゼロトラストは境界内外の位置だけで信頼せず、資源単位の認証・認可を重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「社内ネットワーク内の通信は無条件に信頼する」という記述に対応する。従来型境界防御への依存であり、ゼロトラストの考え方と反する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0052 ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ・暗号・認証 | 難易度：応用

論点：ランサム攻撃への備えとして、バックアップ運用で特に重要な考え方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「オンライン接続されたバックアップまで暗号化される事例があるため、分離・世代管理・復元テストが重要である。」

- ア：対応する記述：ランサム対策ではバックアップは不要で、ウイルス対策ソフトだけで十分である
- イ：対応する記述：本番サーバと同じ認証情報で常時書き込み可能な場所にバックアップを1世代だけ置く
- ウ：対応する記述：バックアップは取得するだけで復元テストは不要である
- エ：対応する記述：本番環境から分離したバックアップを持ち、復元手順を定期的に検証する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「多層防御と復旧手段の確保が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「攻撃時に同時に破壊・暗号化されるリスクが高い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「復元できないバックアップでは事業継続に役立たない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。オンライン接続されたバックアップまで暗号化される事例があるため、分離・世代管理・復元テストが重要である。
総合解説：提示された評価理由は「本番環境から分離したバックアップを持ち、復元手順を定期的に検証する」という記述に対応する。オンライン接続されたバックアップまで暗号化される事例があるため、分離・世代管理・復元テストが重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0053 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：基礎

論点：NISTのクラウド定義におけるSaaSの説明として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「SaaSの説明ではない。」

- ア：対応する記述：クラウドを利用せず自社PCだけで処理する形態
- イ：対応する記述：利用者が仮想マシンやストレージ等の基盤資源を主に利用する形態
- ウ：対応する記述：利用者がアプリ実行基盤を利用し、基盤OS以下を主にプロバイダへ委ねる形態
- エ：対応する記述：利用者がプロバイダのクラウド基盤上で稼働するアプリケーションをサービスとして利用する形態

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。SaaSの説明ではない。
イ：この記述の評価理由は「これはIaaSの説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「これはPaaSの説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「SaaSでは利用者はアプリケーションを利用し、基盤やOS等の管理を通常プロバイダへ委ねる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「クラウドを利用せず自社PCだけで処理する形態」という記述に対応する。SaaSの説明ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0054 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：基礎

論点：クラウドコンピューティングの「迅速な伸縮性（rapid elasticity）」として最も適切な説明はどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「伸縮性と逆である。」

- ア：対応する記述：すべての利用者が同じパスワードを使うこと
- イ：対応する記述：利用量に関係なく資源量を永久固定すること
- ウ：対応する記述：需要に応じてコンピューティング資源を迅速に増減でき、利用者からは大きな資源プールが利用可能に見えること
- エ：対応する記述：ネットワーク接続を一切使わないこと

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「認証運用とは無関係で不適切。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。伸縮性と逆である。
ウ：この記述の評価理由は「クラウドの重要特性の一つで、負荷変動へ柔軟に対応する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「クラウドは広範なネットワークアクセスを特性に含む。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「利用量に関係なく資源量を永久固定すること」という記述に対応する。伸縮性と逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0055 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：標準

論点：ハイパーバイザ型仮想化の説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ハイパーバイザはCPU、メモリ、I/O等を仮想マシンへ割り当てる。」

ア：対応する記述：ゲストOSを一切持てない

イ：対応する記述：すべての仮想マシンが同一プロセスとして完全に共有される

ウ：対応する記述：物理ハードウェア上の計算資源を仮想化し、複数のゲストOSを分離して実行できる

エ：対応する記述：物理サーバをネットワーク機器へ変換する技術だけをいう

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「仮想マシンは通常ゲストOSを実行できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「仮想マシンは分離された実行環境を提供する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ハイパーバイザはCPU、メモリ、I/O等を仮想マシンへ割り当てる。

エ：この記述の評価理由は「用途を限定した説明で誤り。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「物理ハードウェア上の計算資源を仮想化し、複数のゲストOSを分離して実行できる」という記述に対応する。ハイパーバイザはCPU、メモリ、I/O等を仮想マシンへ割り当てる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0056 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：標準

論点：コンテナと仮想マシンの一般的な違いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「通常は共有資源上で動作する。」

ア：対応する記述：仮想マシンはOSを一切持たない

イ：対応する記述：コンテナではアプリケーションを実行できない

ウ：対応する記述：コンテナはホストOSのカーネルを共有するため、通常は各VMが独立ゲストOSを持つ方式より軽量に起動しやすい

エ：対応する記述：コンテナは必ず物理CPUを専有する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「VMは通常ゲストOSを持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「アプリケーション実行環境として広く使われる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「コンテナはプロセス分離機構を用い、OSカーネル共有によりオーバーヘッドを小さくできる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。通常は共有資源上で動作する。

総合解説：提示された評価理由は「コンテナは必ず物理CPUを専有する」という記述に対応する。通常は共有資源上で動作する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0057 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：標準

論点：パブリッククラウドとプライベートクラウドを組み合わせる形態として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「複数の異なるクラウド環境を組み合わせ、データや処理を連携させる形態である。」

- ア：対応する記述：ハイブリッドクラウド
- イ：対応する記述：RAID
- ウ：対応する記述：SaaS
- エ：対応する記述：エッジコンピューティング

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。複数の異なるクラウド環境を組み合わせ、データや処理を連携させる形態である。
イ：この記述の評価理由は「ストレージ冗長化方式である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「SaaSはサービスモデルであり、配置モデルの組合せを表す用語ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「処理を端末やネットワーク端に近づける考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「ハイブリッドクラウド」という記述に対応する。複数の異なるクラウド環境を組み合わせ、データや処理を連携させる形態である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0058 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：標準

論点：工場のIoTセンサーから大量データが発生し、異常検知を数ミリ秒単位で行いたい。クラウドへ全データを送ってから判断するより適切な考え方はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「リアルタイム性を損なう。」

- ア：対応する記述：全センサーを毎回手作業で読み取る
- イ：対応する記述：必ず紙帳票へ変換してから処理する
- ウ：対応する記述：センサーや現場に近いエッジ側で一次処理・異常判定を行い、必要データをクラウドへ送る
- エ：対応する記述：データを一切保存・送信せず異常を無視する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「即時性と自動化の要件に合わない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。リアルタイム性を損なう。
ウ：この記述の評価理由は「エッジ処理は通信遅延・帯域負荷を抑え、即時性を高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「異常検知の目的を満たさない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「必ず紙帳票へ変換してから処理する」という記述に対応する。リアルタイム性を損なう。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0059 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：応用

論点：IoTシステムにおいて、センサーとアクチュエータの役割の組合せとして最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「役割が逆である。」

- ア：対応する記述：両者ともネットワークの経路制御専用装置である
- イ：対応する記述：センサーは物理状態を計測してデータ化し、アクチュエータは指示に基づいて物理的な動作を行う
- ウ：対応する記述：センサーは必ずモーターを回し、アクチュエータは温度を測る
- エ：対応する記述：両者ともデータベースの主キーを設定する装置である

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ルータ等とは役割が異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「センサーは入力、アクチュエータは制御出力の役割を担う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。役割が逆である。
エ：この記述の評価理由は「IoTの入出力装置の説明ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「センサーは必ずモーターを回し、アクチュエータは温度を測る」という記述に対応する。役割が逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0060 ネットワーク・セキュリティ > クラウド・仮想化・IoT | 難易度：応用

論点：クラウド利用における共有責任モデルを考える際の基本的な判断として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「クラウドへ移行しても利用者責任がゼロになるわけではない。」

- ア：対応する記述：IaaSでは利用者はOSやアプリを一切管理できない
- イ：対応する記述：SaaSでは事業者が利用者のパスワードを公開する責任を負う
- ウ：対応する記述：クラウド事業者が存在する限り利用者はセキュリティ対策を一切行わなくてよい
- エ：対応する記述：サービスモデルによって事業者と利用者の管理範囲が異なり、SaaSでも利用者側のアカウント・権限・データ設定などの責任は残る

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「IaaSでは一般に利用者がOS以上を管理する範囲が大きい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「パスワード公開はセキュリティ違反であり、責任モデルの説明でもない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「利用者側の設定・ID管理等の責任が残る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。クラウドへ移行しても利用者責任がゼロになるわけではない。
総合解説：提示された評価理由は「サービスモデルによって事業者と利用者の管理範囲が異なり、SaaSでも利用者側のアカウント・権限・データ設定などの責任は残る」という記述に対応する。クラウドへ移行しても利用者責任がゼロになるわけではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0061 情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：基礎

論点：機能要件の例として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「性能に関する非機能要件である。」

- ア：対応する記述：平均応答時間を2秒以内にする
- イ：対応する記述：受注登録時に在庫を引き当て、欠品なら担当者へ警告を表示する
- ウ：対応する記述：月間稼働率を99.9%以上にする
- エ：対応する記述：個人情報情報を暗号化して保存することをセキュリティ品質として要求する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。性能に関する非機能要件である。
イ：この記述の評価理由は「システムが「何をするか」を示す具体的な機能である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「可用性に関する非機能要件である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「セキュリティの非機能要件に分類される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「平均応答時間を2秒以内にする」という記述に対応する。性能に関する非機能要件である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0062 情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：基礎

論点：要件定義でステークホルダーを特定する主な理由として最も適切なものはどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「システムの成功条件は複数の関係者にまたがるため、要求の衝突や抜けを早期に把握する必要がある。」

- ア：対応する記述：テストをすべて省略するため
- イ：対応する記述：利用者、業務部門、運用部門、経営者など異なる利害関係者の要求・制約を漏れなく把握するため
- ウ：対応する記述：予算を必ず無制限に増やすため
- エ：対応する記述：開発者だけで要件を決め、利用者への確認を不要にするため

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「ステークホルダー分析とテスト省略は無関係。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。システムの成功条件は複数の関係者にまたがるため、要求の衝突や抜けを早期に把握する必要がある。
ウ：この記述の評価理由は「目的は要求・利害・制約の把握である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「利用者要求を取りこぼす危険が高い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「利用者、業務部門、運用部門、経営者など異なる利害関係者の要求・制約を漏れなく把握するため」という記述に対応する。システムの成功条件は複数の関係者にまたがるため、要求の衝突や抜けを早期に把握する必要がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0063

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：基礎

論点：UMLのユースケース図が表す内容として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「ユースケース図は利用目的・機能の関係を表す。」

ア：対応する記述：プログラム内部の全命令を機械語で表す

イ：対応する記述：システム外部のアクターと、システムが提供する機能的な利用目的との関係

ウ：対応する記述：ネットワーク配線図だけを表す

エ：対応する記述：データベースの物理配置だけを表す

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「UMLの目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「ユースケース図は利用者視点でシステムの機能範囲を表現する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ユースケース図は利用目的・機能の関係を表す。

エ：この記述の評価理由は「ER図や物理設計とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「ネットワーク配線図だけを表す」という記述に対応する。ユースケース図は利用目的・機能の関係を表す。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0064

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：基礎

論点：モジュール設計における「高凝集・低結合」が望ましい理由として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは結合を強め、変更影響を拡大する。」

ア：対応する記述：各モジュールの責務をまとまりよくし、モジュール間依存を小さくすることで変更影響を局所化しやすい

イ：対応する記述：一つのモジュールへ全機能を集中させるため

ウ：対応する記述：モジュール間の仕様を一切定義しないため

エ：対応する記述：各モジュールがすべての他モジュールの内部変数へ直接アクセスするため

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「高凝集・低結合は保守性、再利用性、テスト容易性を高める基本原則である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「巨大な単一モジュールは責務が混在しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「適切なインタフェース定義が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは結合を強め、変更影響を拡大する。

総合解説：提示された評価理由は「各モジュールがすべての他モジュールの内部変数へ直接アクセスするため」という記述に対応する。これは結合を強め、変更影響を拡大する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0065 情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：ブラックボックステストの特徴として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ブラックボックステストでは利用者・仕様の観点から機能を確認する。」

- ア：対応する記述：内部構造ではなく仕様上の入力と期待結果に着目してテストケースを設計する
- イ：対応する記述：必ず開発者だけが実施し利用者は関与できない
- ウ：対応する記述：内部アルゴリズムを一切仕様と比較しないため、結果も確認しない
- エ：対応する記述：ソースコードの分岐網羅だけを目的とする

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ブラックボックステストでは利用者・仕様の観点から機能を確認する。
イ：この記述の評価理由は「実施者を限定する定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「入力と出力の期待値は確認する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「分岐網羅はホワイトボックステストの代表的観点である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「内部構造ではなく仕様上の入力と期待結果に着目してテストケースを設計する」という記述に対応する。ブラックボックステストでは利用者・仕様の観点から機能を確認する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0066 情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：入力可能年齢が18歳以上65歳以下のシステムを境界値分析でテストする場合、特に有効な値の組合せとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「範囲内の代表値だけでは境界条件の誤りを捉えにくい。」

- ア：対応する記述：1、2、3、4
- イ：対応する記述：30、40、50、60
- ウ：対応する記述：17、18、65、66
- エ：対応する記述：18、30、40、65

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「下限18付近や上限65付近を確認できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。範囲内の代表値だけでは境界条件の誤りを捉えにくい。
ウ：この記述の評価理由は「境界の直前・境界値・直後を確認することで不等号や範囲判定の誤りを検出しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「境界外の直近値がなく、境界超過判定の確認が弱い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「30、40、50、60」という記述に対応する。範囲内の代表値だけでは境界条件の誤りを捉えにくい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0067

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：複数の条件の組合せによって処理結果が変わる業務ルールのテスト設計に適した技法はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「条件とアクションの組合せを表形式で整理し、組合せ漏れを防ぐのに適する。」

- ア：対応する記述：命令網羅だけ
- イ：対応する記述：境界値分析だけ
- ウ：対応する記述：デシジョンテーブル
- エ：対応する記述：バックアップリストア

答え・解説

正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「内部コード実行の観点であり、業務条件の組合せ整理とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「数値境界には有効だが、複数条件組合せを体系的に表す技法ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。条件とアクションの組合せを表形式で整理し、組合せ漏れを防ぐのに適する。
- エ：この記述の評価理由は「運用・復旧手順でありテストケース設計技法ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「デシジョンテーブル」という記述に対応する。条件とアクションの組合せを表形式で整理し、組合せ漏れを防ぐのに適する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0068

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：単体テスト、結合テスト、システムテスト、受入テストの順序と目的の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「結合テストの重要目的がインタフェース確認である。」

- ア：対応する記述：受入テストはプログラムの1行ごとの構文だけを確認する
- イ：対応する記述：単体テストは本番利用者が運用契約だけを確認する
- ウ：対応する記述：小さな構成要素から結合関係、システム全体、利用者の受入条件へと段階的に検証する
- エ：対応する記述：結合テストではモジュール間インタフェースを確認しない

答え・解説

正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「受入テストは業務要件・受入条件の充足を確認する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「単体テストはプログラム部品等を対象にする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「テストレベルは対象範囲を広げながら、異なる種類の欠陥を検出する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。結合テストの重要目的がインタフェース確認である。

総合解説：提示された評価理由は「結合テストではモジュール間インタフェースを確認しない」という記述に対応する。結合テストの重要目的がインタフェース確認である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0069

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：リグレーションテスト（回帰テスト）の目的として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「要件定義とは別工程である。」

ア：対応する記述：新規システムの要件を初めて定義する

イ：対応する記述：必ず全テストケースを人手で再実行する

ウ：対応する記述：修正や機能追加によって、以前正常だった機能に新たな不具合が生じていないか確認する

エ：対応する記述：本番障害が起きた後だけログを削除する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。要件定義とは別工程である。

イ：この記述の評価理由は「自動化やリスクベース選定もあり、必ず全て人手とは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「変更影響を検証し、既存機能の劣化を検出する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「ログ削除はテスト目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「新規システムの要件を初めて定義する」という記述に対応する。要件定義とは別工程である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0070

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：標準

論点：要件トレーサビリティを確保する目的として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「要件と成果物の対応関係を維持することで、実装漏れやテスト漏れを防ぐ。」

ア：対応する記述：要件を変更しても関係者へ伝えないため

イ：対応する記述：各要件が設計・実装・テストのどこで実現・検証されるか対応付け、漏れや変更影響を追跡できるようにする

ウ：対応する記述：ソースコードを暗号化して誰も読めなくするため

エ：対応する記述：プロジェクトの予算を無制限にするため

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「トレーサビリティは変更影響を可視化するために使う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。要件と成果物の対応関係を維持することで、実装漏れやテスト漏れを防ぐ。

ウ：この記述の評価理由は「暗号化とは別概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「目的は要求と成果物の追跡である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「各要件が設計・実装・テストのどこで実現・検証されるか対応付け、漏れや変更影響を追跡できるようにする」という記述に対応する。要件と成果物の対応関係を維持することで、実装漏れやテスト漏れを防ぐ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0071

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：応用

論点：ホワイトボックステストで分岐網羅を100%にした場合でも、品質上なお注意すべき点として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「カバレッジだけでは欠陥ゼロを保証できない。」

ア：対応する記述：分岐網羅を測るとテストを一切実行しなくてよい

イ：対応する記述：実行した分岐が100%でも、要求仕様の抜けや全入力組合せの欠陥まで必ず検出できるわけではない

ウ：対応する記述：分岐網羅100%ならシステムは数学的に無欠陥と証明される

エ：対応する記述：分岐網羅はブラックボックステストの指標なのでコードとは無関係である

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「実際のテスト実行が前提である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「構造カバレッジは品質の一指標であり、仕様ベーステスト等との併用が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。カバレッジだけでは欠陥ゼロを保証できない。
エ：この記述の評価理由は「分岐網羅は内部制御構造を対象とするホワイトボックス指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「分岐網羅100%ならシステムは数学的に無欠陥と証明される」という記述に対応する。カバレッジだけでは欠陥ゼロを保証できない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0072

情報システム開発 > 要件定義・設計・テスト | 難易度：応用

論点：本番に近い環境で障害時のフェイルオーバーやバックアップ復元を事前検証する意義として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「非機能要件は実際の構成と手順を含めて検証しなければ、障害時に期待どおり動かない可能性がある。」

ア：対応する記述：復旧手順は文書化しなくても担当者の記憶だけで十分になる

イ：対応する記述：バックアップがあれば復元所要時間は確認不要である

ウ：対応する記述：障害試験をすると本番障害が絶対に発生しなくなる

エ：対応する記述：設計書上は成立していても実運用で切替・復旧できないリスクを、リリース前に検出できる

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「属人化を避け、手順化・訓練する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「RTO等の要件を満たすか復元テストが必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「試験でリスクは低減できるがゼロにはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。非機能要件は実際の構成と手順を含めて検証しなければ、障害時に期待どおり動かない可能性がある。

総合解説：提示された評価理由は「設計書上は成立していても実運用で切替・復旧できないリスクを、リリース前に検出できる」という記述に対応する。非機能要件は実際の構成と手順を含めて検証しなければ、障害時に期待どおり動かない可能性がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0073

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：基礎

論点：ウォーターフォール型開発の一般的な特徴として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「要件合意はむしろ重要である。」

ア：対応する記述：利用者との合意を禁止する

イ：対応する記述：要件定義、設計、実装、テストなどの工程を順次進め、各工程の成果物を明確にする

ウ：対応する記述：短い反復で毎日必ず本番リリースすることだけを意味する

エ：対応する記述：要件を一切文書化しない

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。要件合意はむしろ重要である。

イ：この記述の評価理由は「工程ごとの成果物・レビューを重視し、上流から下流へ段階的に進む。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「それはウォーターフォールの定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「工程成果物を明確にすることが多い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「利用者との合意を禁止する」という記述に対応する。要件合意はむしろ重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0074

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：基礎

論点：アジャイル開発の考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「アジャイルは変化への適応を重視する。」

ア：対応する記述：テストを開発の最後に1回だけ行う

イ：対応する記述：最初に全要件を完全固定し、その後は変更を一切認めない

ウ：対応する記述：チーム内のコミュニケーションを禁止する

エ：対応する記述：短い反復で動く成果物を作り、利用者からのフィードバックを取り込みながら価値を段階的に高める

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「反復ごとに品質確認を行うのが一般的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。アジャイルは変化への適応を重視する。

ウ：この記述の評価理由は「協働を重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「変化へ適応し、継続的なフィードバックを重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「最初に全要件を完全固定し、その後は変更を一切認めない」という記述に対応する。アジャイルは変化への適応を重視する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0075

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：基礎

論点：ScrumにおけるProduct Backlogの説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「Product Backlogは製品価値を高めるための作業候補を一元管理する。」

ア：対応する記述：完了した作業だけを削除不能で保存する会計帳簿

イ：対応する記述：組織図を固定するための一覧

ウ：対応する記述：製品に必要な機能・改善などを優先順位付きで管理する、継続的に更新される一覧

エ：対応する記述：サーバ障害ログだけを集めた一覧

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「製品開発項目の一覧であり会計帳簿ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「組織構造の定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。Product Backlogは製品価値を高めるための作業候補を一元管理する。

エ：この記述の評価理由は「運用ログとは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「製品に必要な機能・改善などを優先順位付きで管理する、継続的に更新される一覧」という記述に対応する。Product Backlogは製品価値を高めるための作業候補を一元管理する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0076

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：標準

論点：WBS（Work Breakdown Structure）を作成する主な目的として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「WBSはむしろ見積りの基礎になる。」

ア：対応する記述：プロジェクトの成果物や作業を管理可能な単位へ階層的に分解し、見積り・担当・進捗管理の基礎にする

イ：対応する記述：すべての作業を一つの巨大タスクに統合する

ウ：対応する記述：ネットワークのIPアドレスを割り当てる

エ：対応する記述：予算を一切見積もらず感覚だけで管理する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「WBSはスコープを構造化し、作業パッケージまで分解する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「分解することが目的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「プロジェクト作業分解とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。WBSはむしろ見積りの基礎になる。

総合解説：提示された評価理由は「予算を一切見積もらず感覚だけで管理する」という記述に対応する。WBSはむしろ見積りの基礎になる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0077 情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：標準

論点：あるプロジェクトで、A（3日）の後にB（4日）とC（6日）が並行実施され、両方完了後にD（2日）を実施する。最短完了日数はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「Aの3日後、BとCは並行。長いCの6日がクリティカルとなり、その後Dの2日なので $3 + 6 + 2 = 11$ 日。」

- ア：対応する記述：11日
- イ：対応する記述：15日
- ウ：対応する記述：7日
- エ：対応する記述：9日

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。Aの3日後、BとCは並行。長いCの6日がクリティカルとなり、その後Dの2日なので $3 + 6 + 2 = 11$ 日。
イ：この記述の評価理由は「BとCを直列に足しているが、条件では並行実施である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「AやDを考慮していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「A + B + Dだけを計算しておりCの6日を無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「11日」という記述に対応する。Aの3日後、BとCは並行。長いCの6日がクリティカルとなり、その後Dの2日なので $3 + 6 + 2 = 11$ 日。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0078 情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：標準

論点：EVMで、PV = 100、EV = 80、AC = 100のときのCPI（Cost Performance Index）として正しいものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「差額比率ではなくEV/ACを用いる。」

- ア：対応する記述：1.0
- イ：対応する記述：0.2
- ウ：対応する記述：1.25
- エ：対応する記述：0.8

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「EVとACが等しい場合の値であり、この条件では異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。差額比率ではなくEV/ACを用いる。
ウ：この記述の評価理由は「AC/EVを計算した値である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「 $CPI = EV / AC = 80 / 100 = 0.8$ 。1未満なのでコスト効率は計画より悪い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「0.2」という記述に対応する。差額比率ではなくEV/ACを用いる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0079

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：標準

論点：プロジェクトのリスク管理で最初期に行うべき活動として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「事前管理にならない。」

- ア：対応する記述：目標達成に影響し得る不確実な事象を特定し、発生確率・影響度などを評価する
- イ：対応する記述：すべてのリスクを発生確率に関係なく同じ優先度で扱う
- ウ：対応する記述：リスクを記録せず、発生するまで無視する
- エ：対応する記述：問題が発生した後の対応だけをリスク管理と呼ぶ

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「リスクを識別・分析し、回避・低減・移転・受容等の対応を計画する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「確率・影響等で優先順位付けする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。事前管理にならない。
エ：この記述の評価理由は「発生後はイシュー管理の側面が強く、リスク管理は事前の不確実性も扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「リスクを記録せず、発生するまで無視する」という記述に対応する。事前管理にならない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0080

情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：標準

論点：要件変更の依頼を受けたときの変更管理として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「無秩序な変更を防ぎ、合意された計画との整合を保つ。」

- ア：対応する記述：利用者から要望が来たら影響分析なしで即時実装する
- イ：対応する記述：変更要求は理由に関係なくすべて拒否する
- ウ：対応する記述：変更後も計画書やテスト項目を一切更新しない
- エ：対応する記述：変更の影響範囲、工期、コスト、品質、リスクを評価し、承認プロセスを経てベースライン等へ反映する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「スコープ膨張や品質低下の原因になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「必要な変更まで拒否するのは適切でない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「関連成果物を同期する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。無秩序な変更を防ぎ、合意された計画との整合を保つ。
総合解説：提示された評価理由は「変更の影響範囲、工期、コスト、品質、リスクを評価し、承認プロセスを経てベースライン等へ反映する」という記述に対応する。無秩序な変更を防ぎ、合意された計画との整合を保つ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0081 情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：応用

論点：DevOpsの考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「DevOpsと逆である。」

- ア：対応する記述：開発部門と運用部門の情報共有を禁止する
- イ：対応する記述：テストを廃止してリリース速度だけを上げる
- ウ：対応する記述：開発と運用が協働し、自動化や継続的なフィードバックを通じて安全で迅速な変更提供を目指す
- エ：対応する記述：運用開始後はソフトウェアを一切変更しない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。DevOpsと逆である。
イ：この記述の評価理由は「品質と安全性を保ちながら速度を高めることが目的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「組織間の壁を減らし、CI/CDや監視などを組み合わせる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「継続的改善・デリバリの考え方に反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「開発部門と運用部門の情報共有を禁止する」という記述に対応する。DevOpsと逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0082 情報システム開発 > 開発モデル・プロジェクト管理 | 難易度：応用

論点：プロジェクトに余裕を持たせるため、各作業担当者が個別に大きな安全余裕を隠して持つより、全体の不確実性を可視化して管理する方が望ましい理由として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「余裕を透明化し、ボトルネックや重要経路へ重点配分する方が管理しやすい。」

- ア：対応する記述：隠れた余裕は必ず工期を短縮する
- イ：対応する記述：個別余裕が見えないと進捗の実態や優先度を判断しにくく、全体最適なバッファ管理が難しくなる
- ウ：対応する記述：プロジェクトには不確実性が存在しない
- エ：対応する記述：すべての作業を同時に開始すれば必ず最短になる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「安全余裕が行動変容や遅延吸収に使われるとは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。余裕を透明化し、ボトルネックや重要経路へ重点配分する方が管理しやすい。
ウ：この記述の評価理由は「実際には見積り誤差や変更がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「資源競合や依存関係により成立しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「個別余裕が見えないと進捗の実態や優先度を判断しにくく、全体最適なバッファ管理が難しくなる」という記述に対応する。余裕を透明化し、ボトルネックや重要経路へ重点配分する方が管理しやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0083 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：基礎

論点：ITサービス管理におけるインシデント管理の主目的として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「インシデント管理の目的ではない。」

- ア：対応する記述：サービス中断や品質低下が起きたとき、通常サービスをできるだけ早く復旧して事業影響を最小化する
- イ：対応する記述：新規システムの全要件を定義する
- ウ：対応する記述：利用者アカウントをすべて削除する
- エ：対応する記述：根本原因を永久に研究し続け、復旧を後回しにする

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「インシデント管理は原因究明よりもまずサービス回復を重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「要件定義とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。インシデント管理の目的ではない。
エ：この記述の評価理由は「根本原因分析は問題管理で重視される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「利用者アカウントをすべて削除する」という記述に対応する。インシデント管理の目的ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0084 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：基礎

論点：問題管理（Problem Management）の目的として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「透明性を損ない適切でない。」

- ア：対応する記述：プロジェクトのWBSを作ることだけを行う
- イ：対応する記述：インシデントの根本原因や再発要因を分析し、恒久対策や既知エラー管理によって再発を減らす
- ウ：対応する記述：サービスを復旧せず原因分析だけを行う
- エ：対応する記述：すべての障害を利用者へ隠す

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「プロジェクト管理活動でありITSMの問題管理ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「問題管理は原因・再発防止に焦点を当てる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「インシデント時はまず復旧との役割分担が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。透明性を損ない適切でない。
総合解説：提示された評価理由は「すべての障害を利用者へ隠す」という記述に対応する。透明性を損ない適切でない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0085

情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：標準

論点：変更管理で、緊急変更であっても実施前後に統制が必要な理由として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「緊急性が高くても無統制な変更は大きなリスクになる。」

ア：対応する記述：変更による障害やセキュリティ影響を評価し、承認・記録・検証を行わないと、復旧困難な新たな障害を招くため

イ：対応する記述：緊急変更ではテストや記録を法律上必ず禁止されるため

ウ：対応する記述：変更はサービス品質へ一切影響しないため

エ：対応する記述：承認すると必ず変更が失敗するため

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。緊急性が高くても無統制な変更は大きなリスクになる。

イ：この記述の評価理由は「そのような一般原則はない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「変更は重大なインシデント原因になり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「承認はリスク評価と責任明確化のために行う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「変更による障害やセキュリティ影響を評価し、承認・記録・検証を行わないと、復旧困難な新たな障害を招くため」という記述に対応する。緊急性が高くても無統制な変更は大きなリスクになる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0086

情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：標準

論点：構成管理データベース（CMDB）や構成情報を維持する主な目的として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「IT構成管理の目的ではない。」

ア：対応する記述：全ファイルを自動的に公開する

イ：対応する記述：顧客の営業成績だけを管理する

ウ：対応する記述：CPUのクロックを上げる

エ：対応する記述：サーバ、アプリ、ネットワーク等の構成アイテムと関係を把握し、障害・変更の影響分析に利用する

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「情報公開を目的としない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。IT構成管理の目的ではない。

ウ：この記述の評価理由は「構成情報管理とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「構成情報は「何がどこにあり、何と依存しているか」を追跡する基盤となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「顧客の営業成績だけを管理する」という記述に対応する。IT構成管理の目的ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0087 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：標準

論点：SLAの説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。
「SLAは期待するサービス品質と評価基準を明確化する。」

- ア：対応する記述：ソフトウェアのソースコードそのもの
- イ：対応する記述：暗号鍵の生成アルゴリズム
- ウ：対応する記述：サービス提供者と利用者の間で、可用性や応答時間などのサービス水準を測定可能な形で合意したもの
- エ：対応する記述：データベースの正規化手順

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「SLAは契約・合意の一部でありコードではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「セキュリティアルゴリズムではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。SLAは期待するサービス品質と評価基準を明確化する。
エ：この記述の評価理由は「DB設計技法ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「サービス提供者と利用者の間で、可用性や応答時間などのサービス水準を測定可能な形で合意したもの」という記述に対応する。SLAは期待するサービス品質と評価基準を明確化する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0088 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：標準

論点：1か月30日間24時間稼働のサービスで、停止時間が合計43.2分だった。月間可用性として最も近いものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「停止が存在するため100%ではない。」

- ア：対応する記述：99.9%
- イ：対応する記述：99.0%
- ウ：対応する記述：90.0%
- エ：対応する記述：100.0%

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「総時間は30×24×60＝43,200分。停止43.2分は0.1%なので可用性は99.9%。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「停止432分なら99.0%程度であり、条件の10倍。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「停止時間が総時間の10%の場合で、条件とは大きく異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。停止が存在するため100%ではない。
総合解説：提示された評価理由は「100.0%」という記述に対応する。停止が存在するため100%ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0089 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：応用

論点：RTOとRPOの組合せとして最も適切な説明はどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「どちらも事業継続・復旧目標の指標である。」

- ア：対応する記述：RTOはバックアップ容量、RPOはCPU速度を示す
- イ：対応する記述：RTOとRPOは常に同じ値でなければならない
- ウ：対応する記述：RPOは障害を検知する人数を示す
- エ：対応する記述：RTOは業務・システムを復旧させるまでの目標時間、RPOはどの時点までデータを戻せればよいかという目標復旧時点である

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。どちらも事業継続・復旧目標の指標である。
イ：この記述の評価理由は「業務要件に応じて異なる値を設定できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「復旧時点の目標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「RTOは時間、RPOは許容データ損失の時間幅に関係する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「RTOはバックアップ容量、RPOはCPU速度を示す」という記述に対応する。どちらも事業継続・復旧目標の指標である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0090 情報システム開発 > 運用・保守・ITサービス管理 | 難易度：応用

論点：監視システムでCPU使用率の閾値超過を検知するだけでなく、トレンドを分析して将来の資源不足を予測する活動として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「現在と将来の需要に対して十分なIT資源を適切なコストで確保する活動である。」

- ア：対応する記述：DNSの名前解決
- イ：対応する記述：キャパシティ管理
- ウ：対応する記述：インシデントの即時復旧だけ
- エ：対応する記述：ソフトウェアライセンスを無断コピーする活動

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「ネットワーク機能であり資源需要予測とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。現在と将来の需要に対して十分なIT資源を適切なコストで確保する活動である。
ウ：この記述の評価理由は「警告への対処は含み得るが、将来需要の予測はキャパシティ管理の中心。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「不適切であり管理活動ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「キャパシティ管理」という記述に対応する。現在と将来の需要に対して十分なIT資源を適切なコストで確保する活動である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0091

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：基礎

論点：IT戦略を策定する際の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「技術導入は手段であり、経営上の成果との関係がなければ戦略とはいえない。」

ア：対応する記述：各部門が個別最適でシステムを導入し、全社統合は考慮しない。

イ：対応する記述：経営戦略で実現したい事業目標を明確にし、それを支える情報システム・データ・投資の方針へ落とし込む。

ウ：対応する記述：最新製品を多く導入すること自体をIT戦略の最終目的とする。

エ：対応する記述：IT投資の効果は事前には評価せず、導入後の利用件数だけで判断する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「個別最適だけでは重複投資やデータ断断を招くため、全社視点の統合が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「IT戦略は経営戦略から独立した技術計画ではなく、事業目標の達成を支える形で整合させることが基本である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。技術導入は手段であり、経営上の成果との関係がなければ戦略とはいえない。

エ：この記述の評価理由は「投資前に目的・効果・リスク・実現性等を比較し、導入後も成果を評価する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「最新製品を多く導入すること自体をIT戦略の最終目的とする。」という記述に対応する。技術導入は手段であり、経営上の成果との関係がなければ戦略とはいえない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0092

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：基礎

論点：エンタープライズアーキテクチャ（EA）の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「EAは企業全体を複数のアーキテクチャ層で可視化し、重複や不整合を減らしながら目標状態への移行を設計する。」

ア：対応する記述：1台のサーバのCPU内部構造だけを設計する手法である。

イ：対応する記述：ソフトウェアの画面デザインだけを統一する手法である。

ウ：対応する記述：監査証拠を保存するためのファイル形式である。

エ：対応する記述：組織全体の業務・データ・アプリケーション・技術などを体系的に捉え、現状と目標像のギャップを踏まえて全体最適を図る考え方である。

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「EAの対象は企業全体の業務・情報・システム・技術であり、CPU設計に限定されない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「UI統一だけではなく、業務やデータ、アプリケーション、技術を横断する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「EAは企業の構造と将来像を設計する枠組みであり、監査ファイル形式ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。EAは企業全体を複数のアーキテクチャ層で可視化し、重複や不整合を減らしながら目標状態への移行を設計する。

総合解説：提示された評価理由は「組織全体の業務・データ・アプリケーション・技術などを体系的に捉え、現状と目標像のギャップを踏まえて全体最適を図る考え方である。」という記述に対応する。EAは企業全体を複数のアーキテクチャ層で可視化し、重複や不整合を減らしながら目標状態への移行を設計する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0093

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：基礎

論点：新システム導入に初期投資1,000万円が必要で、導入後3年間に毎年500万円の便益と毎年200万円の運用費が見込まれる。割引を考慮しない単純な3年間の投資収支として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「初期投資は別途発生するため差し引く必要がある。」

- ア：対応する記述：初期投資は運用費に含まれるため、3年間の収支は900万円のプラスである。
イ：対応する記述：3年間の純便益は900万円で、初期投資を差し引くと100万円のマイナスである。
ウ：対応する記述：3年間の純便益は1,500万円で、初期投資後も500万円のプラスである。
エ：対応する記述：3年間の純便益は600万円で、初期投資後400万円のマイナスである。

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。初期投資は別途発生するため差し引く必要がある。
イ：この記述の評価理由は「年間純便益は500 - 200 = 300万円、3年間で900万円。初期投資1,000万円を差し引くと - 100万円となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「運用費200万円/年を無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「便益と運用費の差は年間300万円であり、3年では900万円である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「初期投資は運用費に含まれるため、3年間の収支は900万円のプラスである。」という記述に対応する。初期投資は別途発生するため差し引く必要がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0094

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：標準

論点：2つのクラウドサービスを比較する際、TCO（Total Cost of Ownership）の観点から最も適切な評価はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「TCOでは導入・運用・教育なども含めて総費用を見る。」

- ア：対応する記述：最も機能数が多いサービスを、費用を計算せず選ぶ。
イ：対応する記述：月額利用料だけを比較し、導入作業や教育費は無視する。
ウ：対応する記述：サービス終了時の移行費用は将来のことなのでTCOに含めない。
エ：対応する記述：初期費用だけでなく、利用料、移行、教育、運用、保守、連携、終了時のデータ移行など、利用期間全体のコストを比較する。

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「機能数と総費用は別の評価軸であり、費用対効果を判断できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。TCOでは導入・運用・教育なども含めて総費用を見る。
ウ：この記述の評価理由は「契約終了・切替えに伴う出口コストも総保有費用の一部となり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「TCOは所有・利用に伴う総費用を捉える概念で、初期価格だけでは見えない継続・移行コストも含めて比較する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「月額利用料だけを比較し、導入作業や教育費は無視する。」という記述に対応する。TCOでは導入・運用・教育なども含めて総費用を見る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0095

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：標準

論点：複数のIT案件を同時に抱える企業が、限られた予算を全社最適で配分する方法として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ITポートフォリオ管理では個別案件だけでなく案件群全体の価値・リスク・資源配分のバランスを見る。」

ア：対応する記述：一度採択した案件は環境変化があっても中止しない。

イ：対応する記述：各部門へ同額を配れば全社最適になる。

ウ：対応する記述：各案件を戦略適合度、期待効果、リスク、法令対応の緊急性、必要資源などで比較し、優先順位と案件構成を見直す。

エ：対応する記述：申請順に予算を配分し、戦略上の重要度は考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「投資後も継続評価し、価値が低下した案件は縮小・中止を検討する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「部門ごとの必要性や案件価値は異なるため一律配分は必ずしも最適でない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ITポートフォリオ管理では個別案件だけでなく案件群全体の価値・リスク・資源配分のバランスを見る。

エ：この記述の評価理由は「申請順だけでは経営戦略への貢献やリスクを反映できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「各案件を戦略適合度、期待効果、リスク、法令対応の緊急性、必要資源などで比較し、優先順位と案件構成を見直す。」という記述に対応する。ITポートフォリオ管理では個別案件だけでなく案件群全体の価値・リスク・資源配分のバランスを見る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0096

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：標準

論点：「EC事業の営業利益率を3年後に8%へ高める」というKGIに対して、IT施策のKPIとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「利益率改善との因果関係が弱く、施策効果の判断に不向きである。」

ア：対応する記述：プロジェクトメンバーの名刺枚数をKPIにする。

イ：対応する記述：KGIと同じ「営業利益率8%」だけをKPIとして設定する。

ウ：対応する記述：レコメンド改善施策における購入転換率や平均注文額など、施策と利益率改善の因果関係を追える指標を設定する。

エ：対応する記述：データセンターの床面積だけをKPIにする。

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「事業成果や施策進捗との関係がない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「KGIそのものではなく、達成に向けた先行・中間指標を設定することがKPIの役割である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「KPIは最終成果に至る途中の重要な活動・成果を測り、KGIとのつながりが説明できる必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。利益率改善との因果関係が弱く、施策効果の判断に不向きである。

総合解説：提示された評価理由は「データセンターの床面積だけをKPIにする。」という記述に対応する。利益率改善との因果関係が弱く、施策効果の判断に不向きである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0097

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：標準

論点：顧客情報基盤の刷新について、短期的な直接利益だけでは採算が小さいが、データ品質改善や将来の新サービス開発基盤になると期待されている。投資判断として最も適切なものはどれか。
次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「IT投資には定量化しやすい効果だけでなく、将来の戦略能力やリスク低減など定性的価値があるため、両面を明示して判断する。」

ア：対応する記述：直接的な財務効果に加え、戦略適合性、将来オプション、リスク低減、データ基盤価値などの定性的効果も明示して評価する。

イ：対応する記述：短期利益が小さいため、他の価値を一切検討せず却下する。

ウ：対応する記述：定性的な価値があるので、金額・リスク・実現可能性の検討をすべて省く。

エ：対応する記述：「将来役に立つはず」という説明だけで、評価基準や責任者を設定しない。

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。IT投資には定量化しやすい効果だけでなく、将来の戦略能力やリスク低減など定性的価値があるため、両面を明示して判断する。

イ：この記述の評価理由は「戦略基盤やリスク低減などの価値を無視すると長期的な経営判断を誤り得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「定性的価値を重視する場合でも、費用・リスク・実現性の評価は必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「曖昧な期待ではなく、仮説・指標・検証時点を明確にする必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「直接的な財務効果に加え、戦略適合性、将来オプション、リスク低減、データ基盤価値などの定性的効果も明示して評価する。」という記述に対応する。IT投資には定量化しやすい効果だけでなく、将来の戦略能力やリスク低減など定性的価値があるため、両面を明示して判断する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0098

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：標準

論点：2年前に3,000万円を投じたシステム開発が遅延しており、完成にはさらに2,000万円必要である。一方、同等機能のSaaSへ今切り替える費用は1,200万円、将来運用費も低い。意思決定の考え方として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「サunkコストを代替案の将来費用として扱うのは不適切である。」

ア：対応する記述：SaaSは初期費用が1,200万円なので、機能・移行リスクを見ず必ずSaaSを選ぶ。

イ：対応する記述：過去支出3,000万円をSaaS案の将来費用へ上乗せして比較する。

ウ：対応する記述：既に支出した3,000万円は原則としてサunkコストと捉え、今後発生する費用・便益・リスクを比較して継続か切替えかを判断する。

エ：対応する記述：3,000万円を使った以上、残り費用がどれだけ高くても必ず完成させる。

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「費用だけでなく適合性、移行、セキュリティ等も評価する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。サunkコストを代替案の将来費用として扱うのは不適切である。

ウ：この記述の評価理由は「過去支出は回収不能で現在の代替案比較を歪めるべきではない。将来キャッシュフローとリスクを比較する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「過去支出への固執はサunkコストの誤謬につながる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「過去支出3,000万円をSaaS案の将来費用へ上乗せして比較する。」という記述に対応する。サunkコストを代替案の将来費用として扱うのは不適切である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0099

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：応用

論点：不確実性の高い新規デジタル事業で、最初から全国展開するか、小規模実証後に拡大判断するかを検討している。IT投資の柔軟性を重視した考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「柔軟性を失い、誤った前提に対する損失が大きくなる。」

ア：対応する記述：まず限定範囲で実証し、得られた情報を基に拡大・変更・撤退を選べるよう段階投資する。

イ：対応する記述：段階投資では費用対効果やリスクを評価してはいけない。

ウ：対応する記述：不確実性が高いほど全予算を初日に投入し、後の変更を禁止する。

エ：対応する記述：実証では学習せず、当初計画と異なる結果が出ても全国展開する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「段階投資は不確実性下で将来の選択肢を残すため、情報獲得後に意思決定を更新できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「柔軟性を確保しても、各段階で費用・効果・リスクを評価する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。柔軟性を失い、誤った前提に対する損失が大きくなる。

エ：この記述の評価理由は「実証の目的は仮説検証と学習であり、結果に基づき判断を更新する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「不確実性が高いほど全予算を初日に投入し、後の変更を禁止する。」という記述に対応する。柔軟性を失い、誤った前提に対する損失が大きくなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0100

経営情報管理 > IT戦略・EA・IT投資 | 難易度：応用

論点：基幹システムのクラウド移行計画で、特定ベンダー独自機能への依存が強く、将来の切替えが難しくなる懸念がある。戦略的な対応として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ロックインは必ず悪いわけではないが、将来の選択肢と移行コストを意識し、契約・技術両面で出口戦略を持つことが重要である。」

ア：対応する記述：独自機能を多く使うほど必ず競争力が高まるので、代替可能性は不要である。

イ：対応する記述：ロックインを避けるためクラウドや外部サービスを一切利用しない。

ウ：対応する記述：現在の価格だけで契約し、データ返却形式や解約条件は確認しない。

エ：対応する記述：独自機能の便益と移行困難性を比較し、データ可搬性、標準API、契約上の出口条件、代替手段を事前に設計する。

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「独自機能の便益があっても依存リスクは別に評価する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「利用禁止ではなく、便益と依存リスクを比較し適切に管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「出口条件を確認しないと将来の切替えコストや事業継続リスクが増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ロックインは必ず悪いわけではないが、将来の選択肢と移行コストを意識し、契約・技術両面で出口戦略を持つことが重要である。

総合解説：提示された評価理由は「独自機能の便益と移行困難性を比較し、データ可搬性、標準API、契約上の出口条件、代替手段を事前に設計する。」という記述に対応する。ロックインは必ず悪いわけではないが、将来の選択肢と移行コストを意識し、契約・技術両面で出口戦略を持つことが重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0101 経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：基礎

論点：ERPの導入目的として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「広告配信はマーケティング機能の一部でありERPの中心目的ではない。」

- ア：対応する記述：顧客への広告メール送信だけに特化する。
- イ：対応する記述：会計・販売・購買・生産・人事などの基幹業務データやプロセスを統合し、企業資源を全体最適で管理する。
- ウ：対応する記述：インターネット接続を遮断して情報共有をなくす。
- エ：対応する記述：工場内の1台の機械の制御だけを行う。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。広告配信はマーケティング機能の一部でありERPの中心目的ではない。
イ：この記述の評価理由は「ERPは部門ごとに分断された基幹情報を統合し、共通データに基づく企業資源管理を目指す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「ERPはむしろ業務・情報の統合と共有を促す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「ERPは企業全体の業務資源統合を対象とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「顧客への広告メール送信だけに特化する。」という記述に対応する。広告配信はマーケティング機能の一部でありERPの中心目的ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0102 経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：基礎

論点：SCM（Supply Chain Management）の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「SCMは個社内の一工程だけでなく、供給網全体の需要・在庫・物流等を連携して最適化する考え方である。」

- ア：対応する記述：顧客からの問い合わせ履歴だけを管理する仕組みである。
- イ：対応する記述：調達から生産、在庫、物流、販売までを企業間も含めて連携し、サプライチェーン全体の効率と顧客価値を高める。
- ウ：対応する記述：財務諸表だけを作成する仕組みである。
- エ：対応する記述：採用面接の評価だけを自動化する仕組みである。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「問い合わせ管理はCRM領域に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。SCMは個社内の一工程だけでなく、供給網全体の需要・在庫・物流等を連携して最適化する考え方である。
ウ：この記述の評価理由は「財務会計はSCMの主目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「人事採用だけを対象にする概念ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「調達から生産、在庫、物流、販売までを企業間も含めて連携し、サプライチェーン全体の効率と顧客価値を高める。」という記述に対応する。SCMは個社内の一工程だけでなく、供給網全体の需要・在庫・物流等を連携して最適化する考え方である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0103

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：基礎

論点：CRM（Customer Relationship Management）の主な狙いとして最も適切なものはどれか。
。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「DHCP等のネットワーク機能でありCRMではない。」

ア：対応する記述：製造設備の稼働率だけを最大化する。

イ：対応する記述：顧客との接点や購買履歴等を活用し、顧客理解を深め、関係維持・価値向上につなげる。
。

ウ：対応する記述：IPアドレスを自動配布する。

エ：対応する記述：社員の勤怠データだけを管理する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「設備稼働率は生産管理の指標でありCRMの中心ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「CRMは顧客情報を統合し、獲得、維持、育成、サービス向上などの顧客関係を管理する考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。DHCP等のネットワーク機能でありCRMではない。

エ：この記述の評価理由は「勤怠管理は人事システム領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「IPアドレスを自動配布する。」という記述に対応する。DHCP等のネットワーク機能でありCRMではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0104

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：標準

論点：ERPパッケージ導入で「Fit to Standard」を重視する考え方として最も適切なものはどれか。
。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「これは過度なカスタマイズにつながり、Fit to Standardと逆方向である。」

ア：対応する記述：自社業務を標準機能に合わせることを基本とし、過度な個別カスタマイズを抑えて保守性や更新容易性を高める。

イ：対応する記述：パッケージの標準機能を無効化し、ゼロから作り直す。

ウ：対応する記述：標準に合わせるため、法令や競争優位に必要な業務も無条件で廃止する。

エ：対応する記述：既存業務を一切見直さず、すべての例外処理を個別開発する。

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「標準機能へ業務を合わせることで、独自改修の複雑化やバージョンアップ障害を減らす狙いがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「標準機能活用がFit to Standardの基本である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「法令要件や差別化に必要な業務は例外として慎重に判断する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは過度なカスタマイズにつながり、Fit to Standardと逆方向である。

総合解説：提示された評価理由は「既存業務を一切見直さず、すべての例外処理を個別開発する。」という記述に対応する。これは過度なカスタマイズにつながり、Fit to Standardと逆方向である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0105

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：標準

論点：サプライチェーンのプルウィップ効果を抑える施策として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「需要情報の遅れや局所的な予測により上流ほど変動が増幅するため、情報共有や発注ルール改善が有効である。」

- ア：対応する記述：実需や在庫情報をサプライチェーン参加者で共有し、過大な需要予測修正やまとめ発注を減らす。
- イ：対応する記述：販促の影響を隠し、上流へ需要情報を送らない。
- ウ：対応する記述：各社が下流の販売情報を見ず、自社への注文だけで予測する。
- エ：対応する記述：欠品を恐れて各段階が常に必要量の数倍を発注する。

答え・解説

正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。需要情報の遅れや局所的な予測により上流ほど変動が増幅するため、情報共有や発注ルール改善が有効である。
- イ：この記述の評価理由は「需要要因を共有しないと上流の予測誤差が大きくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「情報分断は需要変動の増幅を助長しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「過剰発注は変動増幅の一因となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「実需や在庫情報をサプライチェーン参加者で共有し、過大な需要予測修正やまとめ発注を減らす。」という記述に対応する。需要情報の遅れや局所的な予測により上流ほど変動が増幅するため、情報共有や発注ルール改善が有効である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0106

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：標準

論点：BPR（Business Process Reengineering）の説明として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「媒体変更だけでは業務プロセスの抜本再設計にならない。」

- ア：対応する記述：現行業務を一切変更せず、新システムに完全再現することを目的とする。
- イ：対応する記述：紙帳票をそのままPDFに変換するだけの活動である。
- ウ：対応する記述：業務改善は情報システム部門だけで行い、現場や顧客視点は不要である。
- エ：対応する記述：既存手順を前提に小改善を積み重ねるだけでなく、顧客価値や成果から業務プロセスを抜本的に再設計する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「BPRではむしろ業務自体の再設計を検討する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。媒体変更だけでは業務プロセスの抜本再設計にならない。
- ウ：この記述の評価理由は「業務部門・顧客価値を含む全体視点が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「BPRは部門や従来手順の境界を前提とせず、成果起点で業務を大幅に再構築する考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「紙帳票をそのままPDFに変換するだけの活動である。」という記述に対応する。媒体変更だけでは業務プロセスの抜本再設計にならない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0107 経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：標準

論点：BPM（Business Process Management）の運用として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「BPMは業務プロセスを継続的に管理・改善する考え方で、可視化、実行、測定、改善を循環させる。」

- ア：対応する記述：部門間の受渡しは可視化せず、各部門内だけを最適化する。
- イ：対応する記述：KPIを設定せず、担当者の感覚だけで改善効果を判断する。
- ウ：対応する記述：業務プロセスを可視化し、KPIを測定しながら継続的に分析・改善する。
- エ：対応する記述：業務プロセスは一度定義したら環境変化があっても変更しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「エンドツーエンドのプロセス視点が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「プロセス性能を測る指標が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。BPMは業務プロセスを継続的に管理・改善する考え方で、可視化、実行、測定、改善を循環させる。
エ：この記述の評価理由は「BPMは継続的改善を前提とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「業務プロセスを可視化し、KPIを測定しながら継続的に分析・改善する。」という記述に対応する。BPMは業務プロセスを継続的に管理・改善する考え方で、可視化、実行、測定、改善を循環させる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0108 経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：標準

論点：ERP導入後、営業システムでは「ABC商事」、会計システムでは「株式会社ABC」と同一顧客が別コードで登録され、全社売上が正しく集計できない。最も優先すべき対応はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「表記揺れや社名変更があり、一意な識別が難しい。」

- ア：対応する記述：顧客コードの定義、名寄せ、登録責任、変更手続きを統一し、マスターデータを一貫して管理する。
- イ：対応する記述：集計時に毎回担当者が手作業で推測して修正する。
- ウ：対応する記述：各システムでさらに別名を増やし、利用部門の自由度を上げる。
- エ：対応する記述：顧客コードを廃止し、会社名の文字列だけで常に同一性を判定する。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「システム統合後もマスター定義が不統一ならデータ統合は実現しない。共通ルールと責任体制によるマスターデータ管理が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「属人的で再現性がなく、継続的な統制にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「重複と不整合が増え、集計精度が悪化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。表記揺れや社名変更があり、一意な識別が難しい。
総合解説：提示された評価理由は「顧客コードを廃止し、会社名の文字列だけで常に同一性を判定する。」という記述に対応する。表記揺れや社名変更があり、一意な識別が難しい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0109

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：応用

論点：店舗、EC、コールセンターで顧客IDが別々に管理され、同じ顧客へ重複した案内が送られている。CRM強化策として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「顧客全体像を把握できず重複対応が続く。」

ア：対応する記述：接点ごとに顧客情報をさらに分断し、相互参照を禁止する。

イ：対応する記述：すべての顧客情報を利用目的を定めず無制限に集約する。

ウ：対応する記述：本人同意や利用目的等に配慮しつつ顧客IDを統合し、各接点の履歴を一貫して把握できる基盤を整備する。

エ：対応する記述：顧客履歴を消去し、毎回新規顧客として扱う。

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。顧客全体像を把握できず重複対応が続く。
イ：この記述の評価理由は「データ活用にはプライバシーや法令、利用目的への配慮が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「オムニチャネル型CRMでは、顧客単位で接点情報を統合することで、一貫した対応や重複施策の削減が可能になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「関係維持やパーソナライズが困難になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「接点ごとに顧客情報をさらに分断し、相互参照を禁止する。」という記述に対応する。顧客全体像を把握できず重複対応が続く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0110

経営情報管理 > ERP・SCM・CRM・業務プロセス | 難易度：応用

論点：受注処理のRPA導入を検討しているが、現行業務には例外処理や重複入力が多い。最も適切な進め方はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「非効率な業務をそのまま自動化すると複雑性を固定化するため、業務整理と標準化を先に行うのが有効である。」

ア：対応する記述：RPAを導入すれば業務ルールの見直しは不要になる。

イ：対応する記述：自動化前にプロセスを可視化し、不要工程や例外の原因を整理した上で、標準化できる処理から自動化する。

ウ：対応する記述：処理時間やエラー率を測定せず、自動化した件数だけで成功と判断する。

エ：対応する記述：すべての例外処理を残したまま、最初から全工程をRPA化する。

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「自動化と業務改革は別であり、ルール自体の改善が必要な場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。非効率な業務をそのまま自動化すると複雑性を固定化するため、業務整理と標準化を先に行うのが有効である。

ウ：この記述の評価理由は「業務成果を評価するKPIが必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「複雑な例外を含む自動化は保守コストや障害リスクを高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「自動化前にプロセスを可視化し、不要工程や例外の原因を整理した上で、標準化できる処理から自動化する。」という記述に対応する。非効率な業務をそのまま自動化すると複雑性を固定化するため、業務整理と標準化を先に行うのが有効である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0111 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：基礎

論点：ITガバナンスの説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「IT運用の一作業でありガバナンス全体ではない。」

- ア：対応する記述：経営目標の達成に向け、情報と技術の活用方針、意思決定、責任、価値・リスク・資源の監督を行う仕組みである。
- イ：対応する記述：監査人が経営者の代わりに事業戦略を決定する仕組みである。
- ウ：対応する記述：PCの故障を修理する作業だけを指す。
- エ：対応する記述：プログラミング言語の文法規則を決める活動である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「ITガバナンスはIT部門の技術運用だけでなく、経営としてITの価値創出・リスク・資源配分を方向付け監督する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「監査人は独立した評価を行うが、経営意思決定の主体ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。IT運用の一作業でありガバナンス全体ではない。
エ：この記述の評価理由は「ガバナンスは企業全体の意思決定・監督に関わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「PCの故障を修理する作業だけを指す。」という記述に対応する。IT運用の一作業でありガバナンス全体ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0112 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：基礎

論点：システム監査人の独立性を確保する上で最も適切な考え方はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「監査人が自ら設計・運用した仕組みを自ら保証すると自己監査となるため、客観性・独立性を損ないやすい。」

- ア：対応する記述：監査人は証拠を確認せず、管理者の説明だけを採用する。
- イ：対応する記述：監査対象システムを日常的に運用する担当者だけで監査チームを構成する。
- ウ：対応する記述：監査結果を被監査部門が自由に削除できるようにする。
- エ：対応する記述：監査対象の業務やシステムの設計・運用に直接責任を負う立場から距離を置き、客観的に評価できる体制を確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「十分かつ適切な監査証拠が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「自己監査となり独立性が弱くなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「監査報告の客観性・信頼性を損なう。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。監査人が自ら設計・運用した仕組みを自ら保証すると自己監査となるため、客観性・独立性を損ないやすい。
総合解説：提示された評価理由は「監査対象の業務やシステムの設計・運用に直接責任を負う立場から距離を置き、客観的に評価できる体制を確保する。」という記述に対応する。監査人が自ら設計・運用した仕組みを自ら保証すると自己監査となるため、客観性・独立性を損ないやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0113 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：基礎

論点：情報システムのリスク対応で「リスク移転」に最も該当するものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「これはリスク保有・受容に該当する。」

- ア：対応する記述：小さな残余リスクを認識した上で受容する。
- イ：対応する記述：多要素認証を導入して不正アクセス確率を下げる。
- ウ：対応する記述：サイバー保険に加入し、一定の損失負担を保険会社へ移す。
- エ：対応する記述：危険なサービスを廃止してリスク源をなくす。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはリスク保有・受容に該当する。
イ：この記述の評価理由は「これはリスク低減に該当する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「保険や契約を利用して損失の財務的影響の一部を第三者へ移すのはリスク移転の例である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これはリスク回避に該当する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「小さな残余リスクを認識した上で受容する。」という記述に対応する。これはリスク保有・受容に該当する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0114 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：標準

論点：購買システムの内部統制として最も望ましいものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「不正取引を自己完結できるため統制上のリスクが高い。」

- ア：対応する記述：取引先登録、発注承認、検収、支払承認を適切に分離し、重要取引には権限に応じた承認を要求する。
- イ：対応する記述：同一担当者が取引先登録から支払承認まで無制限に実行できるようにする。
- ウ：対応する記述：承認履歴を保存せず、口頭承認だけで処理する。
- エ：対応する記述：全社員に管理者権限を付与する。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「相互牽制が働くよう、取引開始から支払までの重要権限を一人へ集中させないことが不正・誤謬防止に有効である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。不正取引を自己完結できるため統制上のリスクが高い。
ウ：この記述の評価理由は「証跡がなく後から検証できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「最小権限の原則に反し、不正・誤操作リスクを増やす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「同一担当者が取引先登録から支払承認まで無制限に実行できるようにする。」という記述に対応する。不正取引を自己完結できるため統制上のリスクが高い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0115

経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：標準

論点：システム監査で「バックアップが毎日実施されている」との説明を検証する方法として、最も強い証拠を得やすいものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「設定・ログ・復元テストを組み合わせれば、単なる口頭説明より実施事実と有効性を直接確認できる。」

ア：対応する記述：バックアップ製品の広告資料だけを見る。

イ：対応する記述：担当者から「毎日実施しています」と聞くだけにする。

ウ：対応する記述：設定値、実行ログ、失敗履歴を確認し、必要に応じてサンプルを復元して実際にデータを読めるか確かめる。

エ：対応する記述：監査対象期間とは無関係な古い手順書だけを見る。

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「製品機能があっても自社で正しく運用されている証拠にはならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「口頭説明だけでは実施事実や復元可能性の裏付けが弱い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。設定・ログ・復元テストを組み合わせれば、単なる口頭説明より実施事実と有効性を直接確認できる。

エ：この記述の評価理由は「現行運用を直接裏付ける証拠になりにくい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「設定値、実行ログ、失敗履歴を確認し、必要に応じてサンプルを復元して実際にデータを読めるか確かめる。」という記述に対応する。設定・ログ・復元テストを組み合わせれば、単なる口頭説明より実施事実と有効性を直接確認できる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0116

経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：標準

論点：本番システムの変更管理として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「承認や職務分掌がない直接変更は統制上のリスクが高い。」

ア：対応する記述：変更要求、影響評価、承認、テスト、リリース、結果確認、必要なロールバック手順を記録し、権限を統制する。

イ：対応する記述：変更後に障害が起きても、変更履歴は残さない。

ウ：対応する記述：変更の影響範囲や依存関係は評価しない。

エ：対応する記述：緊急でなければ開発者が自由に本番を直接編集してよい。

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「変更管理は無秩序な本番変更による障害や不正を防ぐため、事前評価・承認・テスト・記録・復旧計画を整える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「原因追跡や復旧のために変更記録が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「他システムへの波及を含めた影響評価が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。承認や職務分掌がない直接変更は統制上のリスクが高い。

総合解説：提示された評価理由は「緊急でなければ開発者が自由に本番を直接編集してよい。」という記述に対応する。承認や職務分掌がない直接変更は統制上のリスクが高い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0117 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：標準

論点：ある情報資産について、重大障害が1年間に発生する確率を5%、発生時の損失額を2,000万円と見積もった。単純な期待損失額として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「 $2,000\text{万円} \times 0.05 = 100\text{万円}$ である。期待損失はリスク対策費を考える一つの参考値になる。」

- ア：対応する記述：100万円。
- イ：対応する記述：2,000万円。
- ウ：対応する記述：10万円。
- エ：対応する記述：1,000万円。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $2,000\text{万円} \times 0.05 = 100\text{万円}$ である。期待損失はリスク対策費を考える一つの参考値になる。
イ：この記述の評価理由は「これは障害発生時の損失額であり、発生確率を考慮した期待値ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「確率5%は0.05なので $2,000\text{万円} \times 0.05 = 100\text{万円}$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「発生確率を50%として計算している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「100万円。」という記述に対応する。 $2,000\text{万円} \times 0.05 = 100\text{万円}$ である。期待損失はリスク対策費を考える一つの参考値になる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0118 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：標準

論点：重要業務をSaaSへ委託する企業が、委託先の障害・情報漏えいリスクを管理する施策として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「出口管理がなくデータ残存や移行不能のリスクが生じる。」

- ア：対応する記述：外部委託した時点で自社のリスク管理責任はなくなる。
- イ：対応する記述：契約終了時のデータ返却・削除条件を決めない。
- ウ：対応する記述：価格が最安ならセキュリティや継続性は評価しない。
- エ：対応する記述：契約前にセキュリティ・可用性・再委託等を評価し、SLA、事故報告、監査権、データ返却・終了条件を契約と運用で明確にする。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「委託先利用後も自社としてリスクを管理する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。出口管理がなくデータ残存や移行不能のリスクが生じる。
ウ：この記述の評価理由は「重要業務では価格以外のリスク評価が不可欠である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「外部委託しても説明責任や業務リスクは消えないため、選定、契約、モニタリング、終了までライフサイクル管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「契約終了時のデータ返却・削除条件を決めない。」という記述に対応する。出口管理がなくデータ残存や移行不能のリスクが生じる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0119 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：応用

論点：COBIT 2019の考え方を踏まえ、ガバナンスとマネジメントの関係として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「目的・責任の観点で区別して整理される。」

- ア：対応する記述：ガバナンスはIT部門だけの内部作業で、企業目標とは無関係である。
イ：対応する記述：マネジメントが経営の方向付けを行い、ガバナンスは日々のヘルプデスクを担当する。
ウ：対応する記述：ガバナンスとマネジメントは完全に同義で区別する必要がない。
エ：対応する記述：ガバナンスは利害関係者のニーズを評価して方向付け・監督し、マネジメントはその方向に沿って計画・構築・実行・モニタリングする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「企業目標・利害関係者価値との整合が中心である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「役割が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。目的・責任の観点で区別して整理される。
エ：この記述の評価理由は「COBITではガバナンスのEDM（Evaluate, Direct and Monitor）と、マネジメントの計画・構築・運用・評価活動を区別している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「ガバナンスとマネジメントは完全に同義で区別する必要がない。」という記述に対応する。目的・責任の観点で区別して整理される。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0120 経営情報管理 > ITガバナンス・監査・リスク管理 | 難易度：応用

論点：クラウド環境の設定ミスを年1回の監査だけで確認していたところ、監査直後に危険な設定変更が行われ数か月放置された。改善策として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「変化の速いIT環境では、ポイントインタイムの監査だけでなく、継続的モニタリングや自動検知を組み合わせることが有効である。」

- ア：対応する記述：設定変更ログを保存しないことで監査負担を減らす。
イ：対応する記述：監査をなくし、クラウド事業者へすべて任せる。
ウ：対応する記述：年1回監査の直前だけ設定を確認すれば十分である。
エ：対応する記述：定期監査に加えて設定変更ログやセキュリティルールを継続監視し、重要な逸脱を早期検知できる仕組みを導入する。

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「証拠が失われ、原因追跡や統制評価が困難になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「利用者側の設定・権限等の責任やリスク管理は残る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「監査間の長期間に発生する逸脱を見逃す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。変化の速いIT環境では、ポイントインタイムの監査だけでなく、継続的モニタリングや自動検知を組み合わせることが有効である。
総合解説：提示された評価理由は「定期監査に加えて設定変更ログやセキュリティルールを継続監視し、重要な逸脱を早期検知できる仕組みを導入する。」という記述に対応する。変化の速いIT環境では、ポイントインタイムの監査だけでなく、継続的モニタリングや自動検知を組み合わせることが有効である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0121 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：基礎

論点：5店舗の1日売上（万円）が10、12、13、15、100であった。このデータの「典型的な店舗」の売上を外れ値の影響を受けにくく表す代表値として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「平均は $(10+12+13+15+100)/5=30$ で、外れ値100の影響を強く受けている。」

- ア：対応する記述：平均値30万円。
- イ：対応する記述：最大値100万円。
- ウ：対応する記述：中央値13万円。
- エ：対応する記述：範囲90万円。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。平均は $(10+12+13+15+100)/5=30$ で、外れ値100の影響を強く受けている。
イ：この記述の評価理由は「最大値は代表的な水準を示す目的には適さない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「並べた中央の値は13で、中央値は100という外れ値の影響を平均値より受けにくい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「範囲は散らばりを示す指標であり中心位置を表さない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「平均値30万円。」という記述に対応する。平均は $(10+12+13+15+100)/5=30$ で、外れ値100の影響を強く受けている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0122 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：基礎

論点：標準偏差について最も適切な説明はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「標準偏差は分散の平方根で、値が大きいほど一般にばらつきが大きい。」

- ア：対応する記述：標本数に関係なく常に0から1の範囲に入る。
- イ：対応する記述：データが平均の周りにどの程度散らばっているかを、元データと同じ単位で表す代表的な尺度である。
- ウ：対応する記述：平均の大小だけを示し、散らばりとは無関係である。
- エ：対応する記述：データの最大値と必ず一致する。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「標準偏差はデータの単位・尺度に応じた値を取る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。標準偏差は分散の平方根で、値が大きいほど一般にばらつきが大きい。
ウ：この記述の評価理由は「標準偏差は散らばりを表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「最大値とは別の統計量である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「データが平均の周りにどの程度散らばっているかを、元データと同じ単位で表す代表的な尺度である。」という記述に対応する。標準偏差は分散の平方根で、値が大きいほど一般にばらつきが大きい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0123 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：基礎

論点：2つの変数XとYに強い正の相関が観察された場合の解釈として最も適切なものはどれか。
学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「非線形関係などは相関係数0でも存在し得る。」

- ア：対応する記述：XとYと一緒に増減する傾向を示すが、それだけではXがYの原因であるとは断定できない。
- イ：対応する記述：相関が高ければ、第三の変数の影響は絶対にない。
- ウ：対応する記述：相関係数が0なら、XとYの間にどのような関係も絶対に存在しない。
- エ：対応する記述：相関係数が正なら、必ずXがYを引き起こしている。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「相関は関連の強さを示すが、交絡要因や逆因果があり得るため因果関係を直接証明しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「交絡要因が存在する可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。非線形関係などは相関係数0でも存在し得る。

エ：この記述の評価理由は「相関だけでは因果方向を確定できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「相関係数が0なら、XとYの間にどのような関係も絶対に存在しない。」という記述に対応する。非線形関係などは相関係数0でも存在し得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0124 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：基礎

論点：顧客満足度を推定するため、解約した顧客を除き、現在の優良会員だけへアンケートを送った。主な問題として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「標本数を増やしても体系的な選択バイアスは残る。」

- ア：対応する記述：優良会員だけなら必ず母集団の無作為標本になる。
- イ：対応する記述：標本が母集団を代表せず、満足度を高めに推定する選択バイアスが生じるおそれがある。
- ウ：対応する記述：アンケートでは数値データを扱えないことが問題である。
- エ：対応する記述：回答数が多ければ、対象の選び方に偏りがあっても必ず解消する。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「対象が意図的に限定されており無作為標本ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「回答対象の選び方が偏ると、標本平均を精密に計算しても母集団の状態を正しく推定できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「満足度は尺度化して定量分析することもできる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。標本数を増やしても体系的な選択バイアスは残る。

総合解説：提示された評価理由は「回答数が多ければ、対象の選び方に偏りがあっても必ず解消する。」という記述に対応する。標本数を増やしても体系的な選択バイアスは残る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0125 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：広告費X（万円）と売上Y（万円）の単回帰式が「 $Y = 200 + 5X$ 」と推定された。広告費を20万円としたときの予測売上として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「 $X = 20$ を代入すると $Y = 200 + 5 \times 20 = 300$ となる。」

- ア：対応する記述：300万円。
- イ：対応する記述：1,000万円。
- ウ：対応する記述：4,000万円。
- エ：対応する記述：220万円。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $X = 20$ を代入すると $Y = 200 + 5 \times 20 = 300$ となる。
イ：この記述の評価理由は「切片200を無視し、 20×50 等の誤計算である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「回帰式の係数を正しく適用していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「係数5を掛けずに20をそのまま加えている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「300万円。」という記述に対応する。 $X = 20$ を代入すると $Y = 200 + 5 \times 20 = 300$ となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0126 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：同じ方法で母平均の95%信頼区間を推定する場合、他の条件がほぼ同じなら標本数を増やすことで一般に期待される変化はどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「標本数増加は通常、標準誤差を小さくする方向に働く。」

- ア：対応する記述：標準誤差が小さくなり、信頼区間は狭くなる傾向がある。
- イ：対応する記述：信頼区間は必ず広くなる。
- ウ：対応する記述：標本数を増やすと母平均そのものが必ず変化する。
- エ：対応する記述：標本数が増えれば選択バイアスも必ず消える。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「平均の標準誤差は概ね標本数の平方根に反比例するため、標本数が増えると推定精度が高まりやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。標本数増加は通常、標準誤差を小さくする方向に働く。
ウ：この記述の評価理由は「母平均は母集団の性質であり、標本数を増やしたから変わるわけではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「標本の取り方に体系的な偏りがあれば件数だけでは解消しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「信頼区間は必ず広くなる。」という記述に対応する。標本数増加は通常、標準誤差を小さくする方向に働く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0127 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：有意水準5%の仮説検定でp値が0.03であった。最も適切な判断はどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「p値0.03は、有意水準0.05より小さいため通常の判定規則では帰無仮説を棄却する。」

- ア：対応する記述：対立仮説が97%の確率で正しいことを意味する。
- イ：対応する記述：帰無仮説が正しい確率が3%であると断定する。
- ウ：対応する記述：設定した検定の前提のもとでは、p値が0.05未満なので帰無仮説を棄却する。
- エ：対応する記述：p値が0.03なら効果量も必ず大きい。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「頻度論的p値からその確率を直接導くことはできない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「p値は「帰無仮説が正しい確率」ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。p値0.03は、有意水準0.05より小さいため通常の判定規則では帰無仮説を棄却する。
エ：この記述の評価理由は「統計的有意性と実務上の効果の大きさは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「設定した検定の前提のもとでは、p値が0.05未満なので帰無仮説を棄却する。」という記述に対応する。p値0.03は、有意水準0.05より小さいため通常の判定規則では帰無仮説を棄却する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0128 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：品質改善施策の効果検定で、実際には効果がないのに「効果がある」と結論付ける誤りはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「誤りの種類と回帰係数の符号は別概念である。」

- ア：対応する記述：第2種の誤りである。
- イ：対応する記述：第1種の誤りである。
- ウ：対応する記述：標本誤差とは無関係で、検定では起こり得ない。
- エ：対応する記述：回帰係数の符号が正であることを意味する。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「第2種の誤りは、実際に効果があるのに帰無仮説を棄却できない誤りである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「効果なしを帰無仮説とすると、真の帰無仮説を誤って棄却するのが第1種の誤りである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「仮説検定では第1種・第2種の誤りの可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。誤りの種類と回帰係数の符号は別概念である。
総合解説：提示された評価理由は「回帰係数の符号が正であることを意味する。」という記述に対応する。誤りの種類と回帰係数の符号は別概念である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0129 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：ECサイトの新しい購入ボタンが売上に与える効果を検証したい。A/Bテストの設計として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「時期や販促が交絡し、ボタンの効果を分離できない。」

- ア：対応する記述：旧版は平日、新版は大型セール期間だけで比較する。
- イ：対応する記述：指標を見ながら都合のよいものへ何度も変更し、有意な結果だけ採用する。
- ウ：対応する記述：新版だけ優良顧客へ表示する。
- エ：対応する記述：同じ期間・条件で利用者をできるだけ無作為に旧版と新版へ割り付け、事前に定めた転換率等を比較する。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。時期や販促が交絡し、ボタンの効果を分離できない。
イ：この記述の評価理由は「多重比較や恣意的な指標変更で誤検出リスクが高まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「顧客属性が偏り、比較可能性が損なわれる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「ランダム割付により群間の他要因を平均化し、ボタン変更による差を推定しやすくする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「旧版は平日、新版は大型セール期間だけで比較する。」という記述に対応する。時期や販促が交絡し、ボタンの効果を分離できない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0130 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：標準

論点：データウェアハウス（DWH）とOLAPの関係として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「DWHは分析向け統合データ基盤、OLAPは多次元的に集計・探索する分析手法・仕組みとして組み合わせて使われる。」

- ア：対応する記述：DWHはOSの仮想記憶を管理し、OLAPはCPUの命令を解釈する。
- イ：対応する記述：DWHに業務システム等から統合した分析用データを蓄積し、OLAPで期間・商品・地域など多次元の切り口から集計・分析する。
- ウ：対応する記述：DWHは必ずリアルタイム取引処理専用で、履歴分析には使えない。
- エ：対応する記述：OLAPはデータを暗号化する方式である。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「どちらも分析データ活用に関する概念でありOS/CPU機能ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。DWHは分析向け統合データ基盤、OLAPは多次元的に集計・探索する分析手法・仕組みとして組み合わせて使われる。
ウ：この記述の評価理由は「DWHは履歴を含む分析用途で利用される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「OLAPは分析処理であり暗号方式ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「DWHに業務システム等から統合した分析用データを蓄積し、OLAPで期間・商品・地域など多次元の切り口から集計・分析する。」という記述に対応する。DWHは分析向け統合データ基盤、OLAPは多次元的に集計・探索する分析手法・仕組みとして組み合わせて使われる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0131 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：応用

論点：経営ダッシュボードに100種類以上の指標を同じ重みで並べた結果、経営会議で重要な変化を見落とすようになった。改善として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「可読性が下がり重要情報の識別が難しくなる。」

- ア：対応する記述：数値の出所や更新日時を表示しない。
- イ：対応する記述：KPIの定義を部門ごとに自由に変え、同じ名称でも違う計算式を使う。
- ウ：対応する記述：すべての指標をさらに小さい文字で1画面に詰め込む。
- エ：対応する記述：経営目標と意思決定に直結する少数のKPIを優先表示し、閾値・推移・ドリルダウンを使って異常原因を掘り下げられるようにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「データの鮮度・信頼性を判断できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「比較可能性と信頼性が失われる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。可読性が下がり重要情報の識別が難しくなる。
- エ：この記述の評価理由は「ダッシュボードは情報量を最大化するより、意思決定に必要な指標を階層化して重要変化を発見しやすくすることが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「すべての指標をさらに小さい文字で1画面に詰め込む。」という記述に対応する。可読性が下がり重要情報の識別が難しくなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0132 データ活用・DX > 統計・データ分析・意思決定支援 | 難易度：応用

論点：過去3年間、売上と広告費にほぼ線形の関係が見られたため、過去最大の10倍の広告費を投入した場合の売上を同じ回帰式で予測した。分析上の主要な注意点として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「回帰モデルは学習・観測範囲内の関係を前提にしており、極端な外挿では市場飽和や制約により関係が変わり得る。」

- ア：対応する記述：過去データが3年分なら、外挿という概念は存在しない。
- イ：対応する記述：予測値が大きいくほど統計的に信頼できる。
- ウ：対応する記述：回帰式が一度作れば、どんな範囲でも予測は必ず正確である。
- エ：対応する記述：観測範囲を大きく超える外挿では、関係が同じまま続く保証がなく、予測誤差が大きくなるおそれがある。

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「期間ではなく説明変数の観測範囲を超える予測が外挿である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「値の大きさと予測信頼性は直接関係しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「モデルの適用範囲には限界がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。回帰モデルは学習・観測範囲内の関係を前提にしており、極端な外挿では市場飽和や制約により関係が変わり得る。

総合解説：提示された評価理由は「観測範囲を大きく超える外挿では、関係が同じまま続く保証がなく、予測誤差が大きくなるおそれがある。」という記述に対応する。回帰モデルは学習・観測範囲内の関係を前提にしており、極端な外挿では市場飽和や制約により関係が変わり得る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0133 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：基礎

論点：教師あり学習の典型例として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「機械学習モデルの学習ではない。」

- ア：対応する記述：ルールを一切学習せず、担当者が手作業で全予測値を入力する。
- イ：対応する記述：正解ラベルなしの顧客データを似た特徴ごとにクラスタへ分ける。
- ウ：対応する記述：ロボットが試行錯誤し報酬を最大化する行動を学ぶ。
- エ：対応する記述：過去の「解約した／しなかった」という正解ラベル付き顧客データから、将来の解約可能性を予測するモデルを学習する。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。機械学習モデルの学習ではない。
イ：この記述の評価理由は「これは教師なし学習の代表例である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「これは強化学習の代表例である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「教師あり学習は入力と正解ラベルの組から、分類や回帰の対応関係を学習する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「ルールを一切学習せず、担当者が手作業で全予測値を入力する。」という記述に対応する。機械学習モデルの学習ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0134 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：基礎

論点：顧客セグメンテーションで、事前にセグメントの正解ラベルを用意せず、購買頻度や単価の似た顧客をグループ化したい。最も適した学習の種類はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「正解ラベルがなくても教師なし学習でクラスタリングできる。」

- ア：対応する記述：暗号化アルゴリズムを使う。
- イ：対応する記述：教師あり学習だけが可能である。
- ウ：対応する記述：教師なし学習。
- エ：対応する記述：強化学習でなければグループ化できない。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「クラスタリングはデータ分析・機械学習の課題である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。正解ラベルがなくても教師なし学習でクラスタリングできる。
ウ：この記述の評価理由は「正解ラベルなしでデータ内の構造や似た集団を見つけるクラスタリングは教師なし学習の代表例である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「強化学習は報酬に基づく行動学習が中心である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「教師あり学習だけが可能である。」という記述に対応する。正解ラベルがなくても教師なし学習でクラスタリングできる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0135 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：標準

論点：機械学習モデルが訓練データでは非常に高精度だが、未知のテストデータでは精度が大きく低下した。最も可能性が高い状態はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「訓練データの細かなノイズまで適合し、未知データへ一般化できていない典型的な兆候である。」

- ア：対応する記述：必ずデータ暗号化に失敗している。
- イ：対応する記述：未知データで精度が下がるほど良いモデルである。
- ウ：対応する記述：過学習（オーバーフィッティング）である。
- エ：対応する記述：訓練データが少ないほど必ず汎化性能が高い状態である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「精度低下と暗号化は別問題である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「一般化性能が低いことを示す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。訓練データの細かなノイズまで適合し、未知データへ一般化できていない典型的な兆候である。
エ：この記述の評価理由は「少量データはむしろ過学習リスクを高めることがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「過学習（オーバーフィッティング）である。」という記述に対応する。訓練データの細かなノイズまで適合し、未知データへ一般化できていない典型的な兆候である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0136 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：標準

論点：K-fold交差検証の主な目的として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「独立した検証にならず過学習を検知しにくい。」

- ア：対応する記述：モデルの説明可能性を必ず100%にする。
- イ：対応する記述：データを複数の分割に入れ替えながら学習・検証し、単一の分割に依存し過ぎないモデル性能評価や調整を行う。
- ウ：対応する記述：データを暗号化して第三者へ見せないことだけが目的である。
- エ：対応する記述：同じデータを学習用と検証用に完全に重ね、訓練精度だけを見る。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「交差検証は説明可能性を保証しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「複数foldを順に検証用へ回すことで、限られたデータを活用しながら性能推定のばらつきを抑えやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「交差検証はモデル評価・調整の手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。独立した検証にならず過学習を検知しにくい。
総合解説：提示された評価理由は「同じデータを学習用と検証用に完全に重ね、訓練精度だけを見る。」という記述に対応する。独立した検証にならず過学習を検知しにくい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0137 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：標準

論点：不正取引検知モデルが100件を「不正」と判定し、そのうち実際に不正だったのは80件だった。適合率（precision）として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「適合率は「不正と予測したもののうち実際に不正だった割合」なので80/100=80%である。」

- ア：対応する記述：80%。
- イ：対応する記述：100%。
- ウ：対応する記述：不正取引全体の件数が不明なので、適合率は絶対に計算できない。
- エ：対応する記述：20%。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。適合率は「不正と予測したもののうち実際に不正だった割合」なので80/100=80%である。
イ：この記述の評価理由は「不正と予測した100件すべてが真の不正ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「適合率は陽性予測数と真陽性数が分かれば計算できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これは誤検知20件の割合に相当する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「80%。」という記述に対応する。適合率は「不正と予測したもののうち実際に不正だった割合」なので80/100=80%である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0138 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：標準

論点：生成AIを社内FAQ回答に利用する際のハルシネーション対策として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「誤情報・機密情報等のリスクがある。」

- ア：対応する記述：回答根拠となる社内文書を参照させ、出典提示・回答不能時の抑制・重要回答の人手確認などを組み合わせる。
- イ：対応する記述：全社員が出力を検証せずそのまま顧客へ送る。
- ウ：対応する記述：生成AIは常に事実だけを返すので対策は不要である。
- エ：対応する記述：温度設定を最大にすれば事実性が必ず向上する。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「生成AIはもっともらしい誤情報を生成し得るため、根拠付け、検証、利用範囲の制御、人間の監督を組み合わせる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。誤情報・機密情報等のリスクがある。
ウ：この記述の評価理由は「生成AIには誤情報生成のリスクがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「一般に出力の多様性が増える方向で、事実性を保証しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「全社員が出力を検証せずそのまま顧客へ送る。」という記述に対応する。誤情報・機密情報等のリスクがある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0139 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：応用

論点：RAG（Retrieval-Augmented Generation）の利用目的として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「RAGの中心は検索による文脈追加であり、毎回の再学習ではない。」

- ア：対応する記述：データベースのバックアップをRAIDへ保存する方式である。
- イ：対応する記述：質問に関連する外部文書を検索してモデル入力へ与え、その文脈を使って回答を生成させることで、社内知識等に根拠付けしやすくする。
- ウ：対応する記述：LLMの全パラメータを質問ごとにゼロから再学習する方式である。
- エ：対応する記述：生成AIの出力が常に100%正しいことを数学的に保証する方式である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「RAGは生成AIの検索拡張手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「RAGはモデル自体を毎回再学習するのではなく、検索した関連情報をコンテキストとして付与して生成を補助する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。RAGの中心は検索による文脈追加であり、毎回の再学習ではない。
エ：この記述の評価理由は「RAGでも検索ミスや誤生成があり得るため検証は必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「LLMの全パラメータを質問ごとにゼロから再学習する方式である。」という記述に対応する。RAGの中心は検索による文脈追加であり、毎回の再学習ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0140 データ活用・DX > AI・機械学習・生成AI基礎 | 難易度：応用

論点：採用候補者の選考支援AIを導入する企業のAIガバナンスとして最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「採用は個人への影響が大きいため、公平性、透明性、データ品質、人間の監督を含むリスクベースの管理が重要である。」

- ア：対応する記述：AIが出した順位は必ず正しいとみなし、人間は変更できないようにする。
- イ：対応する記述：学習データの出所や偏りを確認せず、精度だけ高ければ利用する。
- ウ：対応する記述：導入後の性能や苦情を監視しない。
- エ：対応する記述：利用目的と責任者を明確にし、学習データや評価指標の偏りを検証し、説明・異議申立て・人間による最終確認などをリスクに応じて設計する。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「モデル誤りや偏りがあり得るため、人間の監督や救済手段が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「高精度でも特定集団に不公平な結果を生む可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「環境変化やドリフトに対応するため継続モニタリングが必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。採用は個人への影響が大きいため、公平性、透明性、データ品質、人間の監督を含むリスクベースの管理が重要である。
総合解説：提示された評価理由は「利用目的と責任者を明確にし、学習データや評価指標の偏りを検証し、説明・異議申立て・人間による最終確認などをリスクに応じて設計する。」という記述に対応する。採用は個人への影響が大きいため、公平性、透明性、データ品質、人間の監督を含むリスクベースの管理が重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0141 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：基礎

論点：DX（デジタルトランスフォーメーション）の考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これはデジタイゼーションの一例であり、必ずしも事業変革を伴わない。」

- ア：対応する記述：紙の帳票をスキャンしてPDFにすることだけをDXと呼ぶ。
イ：対応する記述：DXでは経営戦略との整合は不要で、IT部門だけが進めればよい。
ウ：対応する記述：最新PCへ買い替えるだけで自動的にDXが完了する。
エ：対応する記述：データとデジタル技術を活用して、製品・サービス、業務、組織、ビジネスモデルを変革し、競争上の価値を生み出す。

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはデジタイゼーションの一例であり、必ずしも事業変革を伴わない。
イ：この記述の評価理由は「DXは経営課題であり全社的な戦略・組織変革が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「機器更新だけでは経営・業務変革とはいえない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「DXは単なるIT導入や紙の電子化にとどまらず、経営・事業の変革と価値創出を目的とする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「紙の帳票をスキャンしてPDFにすることだけをDXと呼ぶ。」という記述に対応する。これはデジタイゼーションの一例であり、必ずしも事業変革を伴わない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0142 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：基礎

論点：2026年改訂のDX推進指標の主な使い方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「DX推進指標はデジタルガバナンス・コード3.0に基づき、現状把握と対話、目標設定、改善行動を促す自己診断ツールである。」

- ア：対応する記述：企業を自動的に法的処分するための監査制度である。
イ：対応する記述：経営者や関係部門が自社のDX成熟度や課題を自己診断し、目標とのギャップを議論して具体的なアクションにつなげる。
ウ：対応する記述：IT機器の処理速度だけを測るベンチマークである。
エ：対応する記述：診断結果は一度作れば将来更新する必要がない。

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「自己診断と対話を促す指標であり処分制度ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。DX推進指標はデジタルガバナンス・コード3.0に基づき、現状把握と対話、目標設定、改善行動を促す自己診断ツールである。
ウ：この記述の評価理由は「組織、戦略、人材、データ、セキュリティ等を含むDX全体を扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「継続的に再診断して進捗や課題を見直す活用が想定される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「経営者や関係部門が自社のDX成熟度や課題を自己診断し、目標とのギャップを議論して具体的なアクションにつなげる。」という記述に対応する。DX推進指標はデジタルガバナンス・コード3.0に基づき、現状把握と対話、目標設定、改善行動を促す自己診断ツールである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0143 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：基礎

論点：企業がデータガバナンスを整備する目的・仕組みとして適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「過剰収集や不適切利用は法務・プライバシー・セキュリティ上のリスクとなる。」

- ア：対応する記述：データ品質はIT部門だけの責任で、業務部門は関与しない。
- イ：対応する記述：データを一切利用しないことを目的とする。
- ウ：対応する記述：データを集めるほど価値が上がるので、利用目的や権限管理は不要である。
- エ：対応する記述：データの価値を引き出しながら品質・安全性・適法性を確保するため、責任、権限、ルール、標準、管理プロセスを組織的に定める。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「データの意味や品質は業務側の責任・関与も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「価値創出とリスク管理を両立するための仕組みである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。過剰収集や不適切利用は法務・プライバシー・セキュリティ上のリスクとなる。
エ：この記述の評価理由は「データガバナンスはデータ利用を禁止する仕組みではなく、責任ある利活用を可能にするための意思決定・統制の枠組みである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「データを集めるほど価値が上がるので、利用目的や権限管理は不要である。」という記述に対応する。過剰収集や不適切利用は法務・プライバシー・セキュリティ上のリスクとなる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0144 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：標準

論点：デジタルプラットフォームのネットワーク効果について最も適切な説明はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「ネットワーク効果は参加者増加が価値向上につながる現象を指す。」

- ア：対応する記述：ネットワーク効果は通信速度の単位である。
- イ：対応する記述：プラットフォームでは供給者と需要者の関係を設計する必要がない。
- ウ：対応する記述：参加者が増えることで、他の参加者にとってのサービス価値が高まり、さらに参加を呼び込むことがある。
- エ：対応する記述：参加者が増えるほど必ず一人当たりの価値が下がる現象だけを指す。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「ビジネスモデル・経済性の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「複数サイドの参加・ルール・料金設計が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「市場型・SNS型などでは利用者や補完者の増加が価値を高め、成長を加速するネットワーク効果が生じ得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ネットワーク効果は参加者増加が価値向上につながる現象を指す。
総合解説：提示された評価理由は「参加者が増えるほど必ず一人当たりの価値が下がる現象だけを指す。」という記述に対応する。ネットワーク効果は参加者増加が価値向上につながる現象を指す。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0145 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：標準

論点：企業が外部パートナーへAPIを公開する狙いとして最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「APIはシステム間の標準化された接点を提供し、エコシステム形成や新サービス開発を容易にする。」

ア：対応する記述：自社の機能やデータを契約・認証・権限管理の下で再利用可能にし、外部サービスとの連携や新しい価値創出を促す。

イ：対応する記述：APIを公開すれば認証や利用制限は一切不要になる。

ウ：対応する記述：APIは必ず画面操作を人手で代行する仕組みである。

エ：対応する記述：API化すると既存システムのデータ品質問題は自動的に解決する。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。APIはシステム間の標準化された接点を提供し、エコシステム形成や新サービス開発を容易にする。

イ：この記述の評価理由は「公開範囲に応じて認証、認可、レート制限、監視等が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「APIはシステム同士が機能・データを呼び出すインターフェースである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「APIは接続手段でありデータ品質は別に管理する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「自社の機能やデータを契約・認証・権限管理の下で再利用可能にし、外部サービスとの連携や新しい価値創出を促す。」という記述に対応する。APIはシステム間の標準化された接点を提供し、エコシステム形成や新サービス開発を容易にする。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0146 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：標準

論点：2026年4月公表のデジタルスキル標準Ver.2.0で、データマネジメント類型が新設された背景として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「目的はデータ・AI活用を支える基盤と役割を強化することである。」

ア：対応する記述：データマネジメントをサイバーセキュリティと完全に同義にするため。

イ：対応する記述：データを使わない企業を増やすため。

ウ：対応する記述：AI・データ活用の前提となるデータの品質・整合性・安全性・利用ルールを整備し、組織的にデータ活用を支える役割の重要性が高まったため。

エ：対応する記述：AIが普及したためデータ品質は不要になったから。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「関連はあるが、データ管理は品質・構造・流通・活用等も含む。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。目的はデータ・AI活用を支える基盤と役割を強化することである。

ウ：この記述の評価理由は「DSS2.0ではデータマネジメント類型を新設し、データスチュワード、データエンジニア、データアーキテクト等の役割を整理した。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「AI活用が進むほどデータ品質・管理の重要性は高まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「データを使わない企業を増やすため。」という記述に対応する。目的はデータ・AI活用を支える基盤と役割を強化することである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0147 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：標準

論点：2026年のデジタル人材・DX文脈で用いられるAX（AI Transformation）の考え方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「AXはAI技術の導入件数を増やすこと自体ではなく、AIを経営・業務変革へ組み込む視点で捉える。」

- ア：対応する記述：AIモデルを1つ購入すれば組織変革を伴わなくてもAXが完了する。
イ：対応する記述：AXはデータセンターの空調設備を交換することを意味する。
ウ：対応する記述：AIを単発ツールとして導入するだけでなく、AIを活用して業務、意思決定、製品・サービス、組織能力を変革していく。
エ：対応する記述：AIを使うためデータ整備や人材育成は不要になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「単発導入だけでは変革とはいえない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「AIを活用した変革に関する概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。AXはAI技術の導入件数を増やすこと自体ではなく、AIを経営・業務変革へ組み込む視点で捉える。
エ：この記述の評価理由は「AI活用ではデータ、人材、業務設計、ガバナンスが重要になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「AIを単発ツールとして導入するだけでなく、AIを活用して業務、意思決定、製品・サービス、組織能力を変革していく。」という記述に対応する。AXはAI技術の導入件数を増やすこと自体ではなく、AIを経営・業務変革へ組み込む視点で捉える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0148 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：標準

論点：ローコード／ノーコード開発を全社展開する際の管理として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「保守・廃止不能となるため資産台帳や責任者管理が必要である。」

- ア：対応する記述：全ての現場開発を禁止し、IT部門だけがExcelマクロを含めて作る。
イ：対応する記述：ノーコードならセキュリティリスクが存在しないので統制は不要である。
ウ：対応する記述：現場の迅速な開発を活かしつつ、利用可能な基盤、データ接続、権限、変更、バックアップ、廃止手続きなどのガードレールを定める。
エ：対応する記述：作成者が退職しても所有者や仕様を記録しない。

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「過度な集中は現場の迅速性を損なう。リスクに応じたガバナンスが適切である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「設定ミス、過剰権限、データ連携等のリスクは残る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「市民開発はスピードと現場適合性を高める一方、野良アプリや情報漏えい、保守不能を防ぐため統制が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。保守・廃止不能となるため資産台帳や責任者管理が必要である。
総合解説：提示された評価理由は「作成者が退職しても所有者や仕様を記録しない。」という記述に対応する。保守・廃止不能となるため資産台帳や責任者管理が必要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0149 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：応用

論点：企業が「DXプロジェクトを多数実施しているが、売上や生産性への効果を説明できない」という課題を抱えている。デジタルガバナンス・コード3.0の方向性に照らした改善として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「活動量と企業価値は同じではない。」

- ア：対応する記述：プロジェクト数だけを増やし、成果指標は置かない。
- イ：対応する記述：経営ビジョンとDX戦略を結び、成果指標を設定して取締役会等が進捗・リスクを継続的に監督する。
- ウ：対応する記述：失敗を隠すため、施策の結果を記録しない。
- エ：対応する記述：DXの責任を外部ベンダーへ全て移し、経営層は関与しない。

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。活動量と企業価値は同じではない。
イ：この記述の評価理由は「DX施策を経営戦略・企業価値へ継続し、成果を測定してガバナンスすることが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「学習・改善のため結果と仮説を検証可能にする必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「DXは経営課題であり経営の責任と関与が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「プロジェクト数だけを増やし、成果指標は置かない。」という記述に対応する。活動量と企業価値は同じではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0150 データ活用・DX > DX・デジタルビジネス・最新IT動向 | 難易度：応用

論点：新規デジタルサービスを複数試行している企業が、失敗したPoCを「失敗件数」として責任追及するためだけに扱った結果、現場が挑戦しなくなった。改善として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「不確実性の高いDXでは、全試行の成功を求めるより、小さく検証して学び、価値の高い案件へ資源を移す仕組みが重要である。」

- ア：対応する記述：失敗情報を共有せず、同じ仮説を各部門が繰り返し試す。
- イ：対応する記述：仮説、検証指標、学んだこと、次の意思決定を記録し、早期中止も含めて学習速度と事業価値でポートフォリオを評価する。
- ウ：対応する記述：すべてのPoCを本番化するまで中止を禁止する。
- エ：対応する記述：検証指標を設定せず、参加者の感想だけで成功を決める。

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「組織学習が起きず重複投資を招く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。不確実性の高いDXでは、全試行の成功を求めるより、小さく検証して学び、価値の高い案件へ資源を移す仕組みが重要である。
ウ：この記述の評価理由は「価値が低い案件へ資源を固定し、ポートフォリオ最適化を妨げる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「学習と意思決定を再現可能にするため指標・仮説が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「仮説、検証指標、学んだこと、次の意思決定を記録し、早期中止も含めて学習速度と事業価値でポートフォリオを評価する。」という記述に対応する。不確実性の高いDXでは、全試行の成功を求めるより、小さく検証して学び、価値の高い案件へ資源を移す仕組みが重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03